

## 令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	R201	就業キャリア創造Ⅲ	学科名	全学科	学年	2年	学期	前期		
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～6月	
科目の概要	就職試験において必要となる社会一般常識に関する知識を学ぶ									
講師名	外部講師						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	・就職試験に対応できる社会一般常識を身につける									
使用教材	SPI対策問題集、講師が準備した資料									
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）		
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容					時間	備 考			
1	就職試験のための社会一般常識①					1				
2	就職試験のための社会一般常識②					1				
3	就職試験のための社会一般常識③					1				
4	就職試験のための社会一般常識④					1				
5	就職試験のための社会一般常識⑤					1				
6	就職試験のための社会一般常識⑥					1				
7	就職試験のための社会一般常識⑦					1				
8	就職試験のための社会一般常識⑧					1				
9	就職試験のための社会一般常識⑨					1				
10	就職試験のための社会一般常識⑩					1				
11	就職試験のための社会一般常識⑪					1				
12	就職試験のための社会一般常識⑫					1				
13	就職試験のための社会一般常識⑬					1				
14	就職試験のための社会一般常識⑭					1				
15	試験					1				
授業時間外に必要な学修										
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。									

## 令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	K201	英会話	学科名	全学科	学年	2年	学期	後期		
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	10月～2月	
科目の概要	基礎的な英語の能力、技能を養う									
講師名	外部講師						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	海外研修における簡単なあいさつ、日常会話ができるようになる									
使用教材	仮) 講師の準備する資料、おもてなしチャンツ、QA-50									
成績評価	方法	知識 (90点)			出席率 (10点)			受講態度 (減点)		
	基準	インタビューテスト、リスニングテストにより70点満点で評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・95%以上 1.0</li> <li>・90%以上95%未満 0.9</li> <li>・80%以上90%未満 0.8</li> <li>・70%以上80%未満 0.7</li> <li>・70%未満 0</li> </ul>			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等		
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)										
回	内 容					時間	備 考			
1	英会話 1					1				
2	英会話 2					1				
3	英会話 3					1				
4	英会話 4					1				
5	英会話 5					1				
6	英会話 6					1				
7	英会話 7					1				
8	英会話 8					1				
9	英会話 9					1				
10	英会話 10					1				
11	英会話 11					1				
12	英会話 12					1				
13	英会話 13					1				
14	英会話 14					1				
15	英会話 15					1				
授業時間外に必要な学修										
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。									

### 令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	K203	保健・体育		学科名	全学科	学年	2年	学期	全期	
授業の方法	講義・実技	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～11月	
科目の概要	生涯スポーツの実践や健康について、理論と実践を通して学ぶ。									
講師名	農業大学校職員、外部講師							実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	各スポーツの実践を通じて運動技能を高め、チームに貢献できる能力を養う。 保健では、自らの健康・安全についての理解を深め、健康を保持するための能力を養う。									
使用教材	農大施設 講師の準備する教材									
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）		
	基準	講義終了後のレポートにより評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容						時間	備 考		
1	各スポーツの基本技術習得						1			
2	各スポーツの基本技術習得						1			
3	各スポーツの基本技術習得						1			
4	試合形式による各スポーツの実践						1			
5	試合形式による各スポーツの実践						1			
6	試合形式による各スポーツの実践						1			
7	試合形式による各スポーツの実践						1			
8	試合形式による各スポーツの実践						1			
9	試合形式による各スポーツの実践						1			
10	試合形式による各スポーツの実践						1			
11	試合形式による各スポーツの実践						1			
12	試合形式による各スポーツの実践						1			
13	試合形式による各スポーツの実践						1			
14	試合形式による各スポーツの実践						1			
15	生涯を通じる健康についての講話						1			
授業時間外に必要な学修										
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。									

## 令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	K205	英語特別講義Ⅱ(a)	学科名	全学科	学年	2年	学期	前期		
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	8月	
科目の概要	英文読解、和文英訳、時事英語など英語の理解を深め、編入学試験に対応した英語力を身につける。									
講師名	外部講師						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	4年制大学編入学試験に対応できる英語力を身につける。									
使用教材	講師が準備した資料									
成績評価	方法	知識(90点)			出席率(10点)			受講態度(減点)		
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・95%以上 1.0</li> <li>・90%以上95%未満 0.9</li> <li>・80%以上90%未満 0.8</li> <li>・70%以上80%未満 0.7</li> <li>・70%未満 0</li> </ul>			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等		
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)										
回	内 容					時間	備 考			
1	英文読解、和文英訳、時事英語					1				
2	英文読解、和文英訳、時事英語					1				
3	英文読解、和文英訳、時事英語					1				
4	英文読解、和文英訳、時事英語					1				
5	英文読解、和文英訳、時事英語					1				
6	英文読解、和文英訳、時事英語					1				
7	英文読解、和文英訳、時事英語					1				
8	英文読解、和文英訳、時事英語					1				
9	英文読解、和文英訳、時事英語					1				
10	英文読解、和文英訳、時事英語					1				
11	英文読解、和文英訳、時事英語					1				
12	英文読解、和文英訳、時事英語					1				
13	英文読解、和文英訳、時事英語					1				
14	英文読解、和文英訳、時事英語					1				
15	試験					1				
授業時間外に必要な学修	TOEICを受験する。									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。									

## 令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	K207	くらしと法律・経済	学科名	全学科	学年	2年	学期	前期	
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～6月
科目の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・暮らしに大きく関わる法律や身近な経済について学ぶ</li> <li>・身近な経営動向や農業をとりまく経済情勢について学ぶ</li> </ul>								
講師名	外部講師						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・暮らしに大きく関わる法律と身近な経済について理解させる</li> <li>・国内及び県内の経済情勢と県内企業（農業法人も含む）の経営動向を理解させる</li> <li>・農業をとりまく経済情勢について理解させる</li> </ul>								
使用教材	講師指定の参考書又は配付資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）	
	基準	インタビューテスト、リスニングテストにより70点満点で評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・95%以上 1.0</li> <li>・90%以上95%未満 0.9</li> <li>・80%以上90%未満 0.8</li> <li>・70%以上80%未満 0.7</li> <li>・70%未満 0</li> </ul>			講義中の態度、提出物等の状況により20点を上限に減点する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	農地に関する法律（生産法人、6次産業化含む）					1	行政書士会		
2	日常生活と法律（売買と契約含む）					1			
3	夫婦と親子の法律					1			
4	職場の法律（マイナンバー含む）					1			
5	法律の基本ルール（国民の義務と権利含む）					1			
6	Ⅰ．経済と景気					1	みやぎん経		
7	Ⅱ．世界経済を取り巻く環境					1			
8	Ⅲ．日本経済を取り巻く環境					1			
9	Ⅳ．宮崎県の景気動向					1			
10	Ⅴ．農業を取り巻く環境 試験					1			
11	経営・マーケティング戦略の基本					1	産業経営大学		
12～13	生産・流通・販売活動を通じた付加価値活動（ワークショップ①、②）					2			
14	発表（各グループごとに）					1			
15	まとめ、試験（30分）					1			
授業時間外に必要な学修									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	M109 M209	アグリビジネス		学科名	全学科	学年	全学年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	7月～12月
科目の概要	アグリビジネス分野で活躍されている経営者や関係機関の専門家を講師として招聘し、アグリビジネスの最前線について学習する。その中で企業にいたるまでの経緯や経営理念等からアグリビジネスを成功させるためのポイントや手法について学ぶ。								
講師名	外部講師						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	アグリビジネスの現状と課題について理解を深める								
使用教材	講師が準備する資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）		学習態度(減点)		
	基準	講義ごとのレポートにより評価			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	アグリビジネスに関する講話①					2			
2	アグリビジネスに関する講話②					2			
3	アグリビジネスに関する講話③					2			
4	アグリビジネスに関する講話④					2			
5	アグリビジネスに関する講話⑤					2			
6	アグリビジネスに関する講話⑥					2			
7	アグリビジネスレポート					3			
8									
9									
10									
授業時間外に必要な学修									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

## 令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	M201-Z	農政施策Ⅱ	学科名	畜産学科	学年	2年	学期	全期	
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～11月
科目の概要	・畜産の現状と課題、主要施策及び関係法規、制度について広く学習する。								
講師名	農業大学校職員、外部講師						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国及び宮崎の畜産の現状とその施策を理解する。</li> <li>・家畜人工授精に関する知識を習得する。</li> </ul>								
使用教材	・講師作成資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）	
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・95%以上 1.0</li> <li>・90%以上95%未満 0.9</li> <li>・80%以上90%未満 0.8</li> <li>・70%以上80%未満 0.7</li> <li>・70%未満 0</li> </ul>			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容 ●は「家畜人工授精に関する講習」（国）の科目名及び内容					時間	備考		
1	世界及び日本における畜産の現状と課題					1	外部講師		
2	宮崎県における畜産の現状と課題					1			
3	酪農及び肉用牛生産振興法、家畜商法、家畜取引法 試験①					1			
4	肉用牛情勢					1	外部講師		
5	肉用牛関係主要施策					1			
6	肉用牛関係価格安定制度、牛トレーサビリティ制度 試験②					1			
7	酪農・養豚・養鶏情勢					1	外部講師		
8	酪農・養豚・養鶏関係主要施策					1			
9	酪農・養豚・養鶏関係価格安定制度 試験③					1			
10	飼料情勢					1	外部講師		
11	飼料・家畜排せつ物関係主要施策					1			
12	飼料関係価格安定制度、飼料安全法、家畜排せつ物法 試験④					1			
13	家畜人工授精の制度と関係法規 ●（関係法規）家畜改良増殖法、家畜伝染病予防法、獣医師法					1	農業大学校職員		
14	家畜人工授精の制度と関係法規 ●（関係法規）家畜改良増殖法、家畜伝染病予防法、獣医師法					1			
15	家畜人工授精の制度と関係法規 ●（関係法規）家畜改良増殖法、家畜伝染病予防法、獣医師法 試験⑤					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和3年度 授業計画書[シラバス]

科目名	M207-Af	農業生産工程管理Ⅱ		学科名	全学科 フードビジネス	学年	2年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～6月
科目の概要	食品衛生法等の一部改正（H30年6月13日公布）により全ての食品等事業者は、原則としてHACCPに沿った衛生管理手法が必要となった。本科目では、食品製造における衛生管理や一般的衛生管理やHACCP、また、企業におけるFSSC22000等の食品安全システム認証について知識を深め、食の安全性に関して衛生管理や品質管理を徹底し安全・安心の商品を消費者に提供することの重要性を学ぶ。								
講師名	農業大学校職員、外部講師						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	学生が、農畜産物を利用した加工品を製造する中で、HACCPによる衛生管理やHACCPの考え方を取り入れた衛生管理計画に基づき、安全な食品製造の重要性について、理解することを到達目標とする。								
使用教材	講師が準備する資料 HACCPの考え方を取り入れた衛生管理のための手引書（発行：厚生労働省）								
成績評価	方法	知識（90点）		出席点（10点）		受講態度（減点）			
	基準	レポート及び講義終了後にテストを行い、知識の習得状況により評価する。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等			
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1～2	食品製造における衛生管理について 食品衛生法、改正食品衛生法、食品に関する国際基準と国内法の関係						2		
3～4	企業における一般衛生とHACCPの取り組み						2		
5～6	食品衛生7S（従業員教育）、HACCP、JFS-B、C規格、ISO22000及びFSSC22000の概略について						2		
7～8	食品製造におけるHACCPによる管理及び学校給食用コッペパンのHACCPシステム構築						2		
9～10	殺菌理論概略、コッペパン製造のHACCPプラン作成、企業が採用している商品開発理論（MIP）、 <u>テスト</u>						2		
11～15	食品加工エリアの整備と実践(見える化)						5		
授業時間外に必要な学修	予習、復習及び試験に向けた学習								
再試験及び補習対象の実施基準	管理運営要領の特別な事情に当たる場合以外、原則として再試験は実施しない。								

## 令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	M207-Z	農業生産工程管理	学科名	畜産学科	学年	2年	学期	前期	
授業の方法	講義	区分	一般	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～7月
科目の概要	・農業生産において、消費者から信頼される安全・安心な農産物を提供する手法としてGAPの考え方を学ぶ。								
講師名	農業大学校職員、外部講師						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業生産工程管理（GAP）の考え方を理解させ、具体的なリスク管理を習得する。</li> <li>・GAP維持・更新審査にて対応できる知識を習得する。</li> </ul>								
使用教材	・講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）	
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・95%以上 1.0</li> <li>・90%以上95%未満 0.9</li> <li>・80%以上90%未満 0.8</li> <li>・70%以上80%未満 0.7</li> <li>・70%未満 0</li> </ul>			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	GAPの基礎①					1	外部講師		
2	GAPの基礎②					1			
3	GAPの認証と導入					1			
4	ひなたGAPの概要					1			
5	リスク分析の考え方					1			
6	生産工程におけるリスク分析					1			
7	農産物取り扱い工程におけるリスク分析					1			
8	労働安全のリスク分析					1			
9	ひなたGAPチェックリストの解説①					1			
10	ひなたGAPチェックリストの解説②					1			
11	GAP現地研修（農大校ほ場）					1			
12	GAP現地研修（農大校ほ場）					1			
13	認証制GAPの解説①					1			
14	認証制GAPの解説②					1			
15	試験					1	農業大学校職員		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない。								

令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	M210	インターンシップⅢ		学科名	両学科	学年	2年	学期	後期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	1	時間数	30	開講時期	9月下旬
科目の概要	農業以外の業種での職業体験								
講師名	県内福祉事務所、保育施設等の専門職員						実務経験のある教員等による授業科目		○
到達目標	異業種での研修により視野を広げ、柔軟な社会性や人間性を身につける。								
使用教材	各指導者が準備する資料等								
成績評価	方法	研修日誌 (20点)		研修報告書 (30点)		研修評価書 (30点)		出席 (20点)	
	基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日数：2点/日</li> <li>・内容 A(良い)3点/日 B(普通)2点/日 C(悪い)0点/日</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・提出 提出有り：10点 提出無し：0点</li> <li>・内容※提出のみ採点 A(良い)20点/日 B(普通)10点/日 C(悪い)5点/日</li> </ul>		※講師の採点による。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・95%以上 1.0</li> <li>・90%以上95%未満 0.9</li> <li>・80%以上90%未満 0.8</li> <li>・80%未満 0</li> </ul>	
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容					時間	備 考		
1日目 ～ 3日目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修先の事業概要について学ぶ。</li> <li>・実習や見学をとおして教科指導に関する知識や技術を学ぶ。</li> </ul>					18時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導は実務経験のある職員に限定する。</li> <li>・説明等を講義形式で行う場合がある。</li> </ul>		
4日目 ～ 5日目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習や見学、講師等との意見交換をとおして、農場実習の実務について情報を収集する。</li> </ul>					12時間			
6日目 ～ 10日目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習や講師等との意見交換をとおして、農業教育・農場実習のノウハウを会得する。</li> </ul>					30時間			
授業時間外に必要な学修	研修日誌の記入及び研修報告書の作成								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事業がある場合は教務学生課へ申し出ること。その後、別途通知する。								

令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	M213-Af	卒業論文(フ)		学科名	全学科 フードビジネス	学年	2年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	4	時間数	60	開講時期	11月～1月
科目の概要	フードビジネスに関する研究テーマを自ら設定し、テーマに即した調査や実証等の研究を行うと共にプロジェクト活動として発表し、研究報告書として卒業論文にまとめる。								
講師名	農業大学校職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	学生が、主体的にフードビジネスに関するプロジェクトテーマを設定し、自らの実施計画、進行管理を行い、実証活動をまとめプロジェクト活動の発表を行う。また、研究報告書を作成することにより、課題解決に向けた一連のスキルを習得することを到達目標とする。								
使用教材	フードビジネス専攻で配布された資料、各自テーマに沿った図書や文献等								
成績評価	方法	テーマ設定 (10点)	研修内容 (20点)	データ整理 (20点)	論点整理 (20点)	自主的取組 (30点)			
	基準	学生が主体的にフードビジネスに関するテーマを設定し計画を立てることが出来る。	計画にそった実習や実験を自ら進行管理を行い、文献やインターネット等の情報を活用し、研究を進めることができる。	データ整理の手法は適切であるか。プロジェクト発表内容・態度についても評価する。	実験データや文献等を活用し、論点を整理した論文となっているか。	意欲的に研究に取り組めたか。			
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容					時間	備 考		
1～6	テーマ設定、テーマに関する基礎調査					6			
7～9	調査まとめ・研究方法の確定					3			
10～40	調査および実証					31			
41～50	プロジェクト活動の発表					10			
51～60	卒業論文の作成					10			
授業時間外に必要な学修	日頃から、自身の研究に関連する情報について、図書や統計データ等、調査事例や卒業論文などについて研究する。また、プロジェクト活動のためのスキルを向上させるため、プレゼンテーション能力の向上に向けた自主学習を実施する。								
再試験及び補習対象の実施基準	補講や再試験は実施しない。								

## 令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	M213	卒業論文	学科名	畜産学科	学年	2年	学期	全期	
授業の方法	実習・演習	区分	必修	単位数	4	時間数	60	開講時期	4月～1月
科目の概要	・地域農業及び自家経営におけるテーマを設定し、そのテーマにそつた的確な計画を作成する。その計画に基づき、実践・調査・まとめ等を実施する。その結果を卒業論文としてまとめる。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・プロジェクトの計画、実施、調査、卒業論文としてのまとめ等を通じて、課題解決能力及び畜産技術・経営管理能力の向上等農業担い手としての総合的な能力を習得する。								
使用教材	・講師作成資料								
成績評価	方法	テーマ設定 (10点)	研究内容 (20点)	データ整理 (20点)	論点整理 (20点)	自主的取組 (30点)			
	基準	地域農業及び自家経営の現状に鑑み、テーマの設定がふさわしいかの視点で評価。	試験区の設定や調査項目等研究内容が課題解決のための内容になっているか、また、研究内容に創意工夫が見られるか等の視点で評価。	データを正確に取得しているか、課題解決にむけたデータの整理が行われているかの視点で評価。	データの分析・検討が的確に実施できているか、また、結果を地域農業及び自家経営に有効に展開できるか等の視点で評価。	主体的に取り組んでいるか、また、他の学生や職員等と連携しながら目標達成に向けた取組を行っているかの視点で評価。			
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容					時間	備 考		
1	卒業論文の進め方 (オリエンテーション)					1			
2～5	テーマの設定と研究内容の検討					4			
6～40	研究内容に沿った実践・調査					35			
40～50	データの分析・検討					10			
51～60	卒業論文としてのまとめ					10			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試及び補講は行わないが、特別な事情がある場合は時間外に補講を認める。								



## 令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	M214	海外農業研修	学科名	全学科	学年	2年	学期	後期	
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	2	時間数	60	開講時期	1月
科目の概要	海外でのファームステイや産地視察、流通視察を通して海外の農業の実態や経営について学ぶ								
講師名	農業大学校職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	研修を通じて海外の農業経営について学び、国際感覚やグローバルな視点を身につける。								
使用教材	研修のしおり								
成績評価	方法	研修報告書（70点）			出席率（30点）			学習態度（減点）	
	基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提出 提出有り：40点</li> <li>提出無し：0点</li> <li>・内容※提出のみ採点</li> <li>A（良い）30点/日</li> <li>B（普通）15点/日</li> <li>C（悪い）8点/日</li> </ul>			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・95%以上 1.0</li> <li>・90%以上95%未満 0.9</li> <li>・80%以上90%未満 0.8</li> <li>・70%以上80%未満 0.7</li> <li>・70%未満 0</li> </ul>			研修中の態度、提出物により30点を上限として除する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1回	事前指導① 研修目的 研修内容等					1時間			
2回	事前指導② 研修目的 視察先 ファームステイでの過ごし方					1時間			
3回	事前指導③ 研修目的 研修準備について					1時間			
4～60回	海外研修 ニュージーランドオークランド					57時間			
授業時間外に必要な学修	研修報告書の作成								
再試験及び補習対象の実施基準	やむを得ない事情により海外農業研修に参加できない場合。								

## 令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	M215	スマート農業活用	学科名	農学科	学年	2年	学期	全期	
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	5月～10月
科目の概要	・スマート農機を使いこなすための基本となる植物の生理、光合成や新たに導入した装置の計測データの内容と解析方法を学ぶ。								
講師名	総合農業試験場職員、機械メーカー担当者 農業者、農業大学校指導職員 他						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・データの内容と解析方法を習得させる。 ・卒業後、現場においてスマート農業を実践できる基本的なスキルを習得させる。								
使用教材	・講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）		出席率（10点）		受講態度（減点）			
	基準	各講座ごとにレポートにて理解度を評価する。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等			
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	植物の生理現象と園芸施設の複合環境制御について					2	総合農業試験場 職員		
2									
3	植物の光合成働きと園芸施設の複合環境制御について					2	外部講師		
4									
5	農業大学校の施設園芸ハウス複合環境制御装置データ分析と活用					2	外部講師		
6									
7	アグリネットシステムについて（果樹ハウス） 農業経営生産管理システムについて					2	外部講師		
8									
9	スマート農業の実践 農業経営のスマート化 ・ICTを活用した農業経営管理技術の効率化					2	外部講師		
10									
11	スマート農業の実践における 土づくり、微生物の働きについて					2	外部講師		
12									
13	スマート農業の実践における 土づくり、土壌診断・分析について					3	外部講師		
14									
15									
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない								

## 令和3年度 授業計画書[シラバス]

科目名	M216-Af	専攻特別実習		学科名	全学科 フードビジネス	学年	2年	学期	全期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	4	時間数	120	開講時期	4月～12月
科目の概要	フードビジネス専攻において必要な資格取得に関する学習や学生模擬会社の販売実習、専攻での特別講義等を行う								
講師名	農業大専攻職員							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	資格取得のための講習により高度な知識を身につけると共に、学生出資会社の販売活動などを通じて、社会的な実践力を身につける。								
使用教材	資格取得のためのテキスト								
成績評価	方法	知識（40点）	技能・技術（40点）	出席点（20点）			受講態度（減点）		
	基準	専攻特別実習に関する記録簿の記入状況と活動内容の確認により評価する。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 95%以上 1.0</li> <li>・ 90%以上95%未満 0.9</li> <li>・ 80%以上90%未満 0.8</li> <li>・ 70%以上80%未満 0.7</li> <li>・ 70%未満 0</li> </ul>			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1～10	資格取得のための学修、学生出資会社 販売実習						10	4月	
11～25	資格取得のための学修、学生出資会社 販売実習						15	5月	
26～40	資格取得のための学修、学生出資会社 販売実習						15	6月	
41～55	資格取得のための学修、学生出資会社 販売実習						15	7月	
56～65	資格取得のための学修、学生出資会社 販売実習						10	8月	
66～80	資格取得のための学修、学生出資会社 販売実習						15	9月	
81～90	資格取得のための学修、学生出資会社 販売実習						10	10月	
91～110	資格取得のための学修、学生出資会社 販売実習						20	11月	
111～120	資格取得のための学修、学生出資会社 販売実習						10	12月	
授業時間外に必要な学修	1年間で取得する資格等を決定し、準備する。								
再試験及び補習対象の実施基準	時間外実習の時間が不足する場合、休業期間中に時間外実習を行う。								



## 令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	M216-Z	専攻特別実習 (肉用牛・酪農)	学科名	畜産学科	学年	2年	学期	全期	
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	8	時間数	240	開講時期	4月～12月
科目の概要	・各専攻別に家畜の飼養管理や繁殖・肥育管理などの実習を行う。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員 等による授業科目	○	
到達目標	・各専攻別に家畜の飼養管理や繁殖・肥育管理などの実習を通じて、生産技術や経営のスキルを身につける。								
使用教材	・講師作成資料								
成績評価	方法	知識（40点）	技能・技術（40点）	出席率（20点）		受講態度（減点）			
	基準	各専攻別に家畜の飼養管理等の実習やプロジェクト学習に積極的に取り組んでいるかをチェックし評定する。	講師の採点による。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・80%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等			
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1～26	家畜の飼養管理等					26	7月		
27～54	家畜の飼養管理等					28	8月		
55～80	家畜の飼養管理等					26	9月		
81～106	家畜の飼養管理等					26	10月		
107～132	家畜の飼養管理等					26	11月		
133～160	家畜の飼養管理等					28	12月		
161～186	家畜の飼養管理等					26	1月		
187～212	家畜の飼養管理等					26	2月		
213～240	家畜の飼養管理等					28	3月		
授業時間外に必要な 学修	1年間で取得する資格等を決定し、準備する。								
再試験及び補習対象 の実施基準	時間が不足する場合、休業期間中に専攻特別実習を行う。								

## 令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	M216-Zp	専攻特別実習(養豚)	学科名	畜産学科	学年	2年	学期	全期	
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	5	時間数	150	開講時期	4月～12月
科目の概要	・豚の飼養管理などの実習を行う。								
講師名	農業大学校職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・豚の飼養管理などの実習を通じて、生産技術や経営のスキルを身につける。								
使用教材	・講師作成資料								
成績評価	方法	知識（40点）	技能・技術（40点）	出席率（20点）	受講態度（減点）				
	基準	豚の飼養管理や繁殖・肥育管理などの実習やプロジェクト学習に積極的に取り組んでいるかをチェックし評定する。	講師の採点による。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・80%未満 0	20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等				
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1～16	豚の飼養管理等					16	7月		
17～34	豚の飼養管理等					18	8月		
35～50	豚の飼養管理等					16	9月		
51～66	豚の飼養管理等					16	10月		
67～82	豚の飼養管理等					16	11月		
83～100	豚の飼養管理等					18	12月		
101～116	豚の飼養管理等					16	1月		
117～132	豚の飼養管理等					16	2月		
133～150	豚の飼養管理等					18	3月		
授業時間外に必要な学修	1年間で取得する資格等を決定し、準備する。								
再試験及び補習対象の実施基準	時間が不足する場合、休業期間中に専攻特別実習を行う。								

## 令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	T205	会社経営		学科名	全学科 フードビジネス	学年	2年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	2	時間数	30	開講時期	4月～1月
科目の概要	農大の模擬会社を教材に、会社経営計画や販売計画などを学ぶ。								
講師名	農業大学校職員、外部講師							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	○会社経営に関する基礎知識を身につける。 ○模擬会社の運営及び経理について理解する。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識（70点）			学習態度（20点）			出席率（10点）	
	基準	学生出資会社の運営に関する意見交換会や受講後のレポートの内容により評価する。			授業中の態度をA・B・Cの3段階で評価し、以下の係数を乗じた点数とする。 A：問題のない授業態度 1.0 B：注意を受けたが改善 0.5 C：改善なし、授業妨害 0			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	学生出資会社に関する各組織ごとの運営方法 今年度の経営目標					1			
2	経理状況の確認（各専攻ごと）					1			
3	契約書類に関すること					1			
4	5月農大市の準備、運営方法について					1			
5	農大市の反省、模擬会社に関する各組織の運営方法について					1			
6	模擬会社に関する研究					1			
7	模擬会社に関する研究					1			
8	6月農大市の準備、運営方法について					1			
9	農大市の反省、模擬会社に関する各組織の運営方法について					1			
10	模擬会社に関する研究					1			
11	模擬会社に関する研究					1			
12	7月農大市の準備、運営方法について					1			
13	農大市の反省、模擬会社に関する各組織の運営方法について					1			
14	R3年度前期の売上会計報告					1			
15	ふるさと納税について 高鍋町役場 財政経営課 ふるさと納税担当者					1			
16	農大市の反省、模擬会社に関する各組織の運営方法について					1			
17	10月農大市の準備、運営方法について					1			
18	農大市の反省、模擬会社に関する各組織の運営方法について					1			
19	模擬会社に関する研究					1			
20	模擬会社に関する研究					1			
21	11月農大市の準備、運営方法について					1			
22	1, 2年合同 会社経営について					2			
23	株式会社ヤミーフードラボ代表取締役 谷口竜一 様								
24	1, 2年合同 学生出資会社の新役員体制づくり					2			
25	定期株主総会資料作成								
26	定期総会資料制作					1			
27	1, 2年合同 会社経営、商品開発について					2			
28	株式会社 日向利休庵 代表取締役 弓削 龍生 様								
29	令和3年 定時株主総会					2			
30									
授業時間外に必要な学修	専攻ごとに販売実績について情報収集を行い、売上向上に向けて研究する。								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試、補講は認めない。								

## 令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	T208	商業簿記	学科名	全学科	学年	2年	学期	前期		
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	2	時間数	30	開講時期	7,8月	
科目の概要	複式簿記の意義、貸借対照表・損益計算書の意味と構成、帳簿と仕分け、減価償却と計算法、試算表と清算表、決算までの簿記の一連の流れを習得させる									
講師名	外部講師						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	日商簿記3級取得を目指す									
使用教材	講師の指定する教材									
成績評価	方法	知識（70点）			学習態度（20点）			出席率（10点）		
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			受講態度をA～Cの3段階で評価。 A：興味関心を持って積極的に受講している(20点) B：周囲に迷惑をかけることなく受講している(10点) C：居眠り、スマホ操作等により講義に集中していない(0点)			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容					時間	備 考			
1,2	簿記の意義、記帳から決算までの流れ					2				
3,4	貸借対照表の意味と構成					2				
5,6	損益計算書の意味と構成					2				
7,8	取引と勘定、帳簿					2				
9～12	仕訳					4				
13～15	資産、負債、資本					3				
16～18	収益と費用					3				
19～22	決算書作成					4				
23～29	検定過去問題の実施および解説					7				
30	試験					1				
授業時間外に必要な学修	講義の予習、復習 講師から出される課題									
再試験及び補習対象の実施基準										

## 令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	T209	教育実習		学科名	全学科	学年	2年	学期	前期
授業の方法	実習	区分	選択	単位数	2	時間数	30	開講時期	6月
科目の概要	農業高校の農業実習助手の実習								
講師名	県内の農業高校							実務経験のある教員等による授業科目	○
到達目標	農業高校の農業実習助手としての心構え、実務の概要を身につける								
使用教材	各指導者が準備する資料等								
成績評価	方法	研修日誌 (20点)		研修報告書 (30点)		研修評価書 (30点)		出席 (20点)	
	基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日数：2点/日</li> <li>・ 内容 A (良い) 3点/日 B (普通) 2点/日 C (悪い) 0点/日</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 提出 提出有り：10点 提出無し：0点</li> <li>・ 内容※提出のみ採点 A (良い) 20点/日 B (普通) 10点/日 C (悪い) 5点/日</li> </ul>		※講師の採点による。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 95%以上 1.0</li> <li>・ 90%以上95%未満 0.9</li> <li>・ 80%以上90%未満 0.8</li> <li>・ 80%未満 0</li> </ul>	
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容					時間	備 考		
1日目 ～ 3日目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修先の事業概要について学ぶ。</li> <li>・ 実習や見学をとおして教科指導に関する知識や技術を学ぶ。</li> </ul>					18時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導は実務経験のある職員に限定する。</li> <li>・ 説明等を講義形式で行う場合がある。</li> </ul>		
4日目 ～ 5日目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習や見学、講師等との意見交換をとおして、農場実習の実務について情報を収集する。</li> </ul>					12時間			
6日目 ～ 10日目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習や講師等との意見交換をとおして、農業教育・農場実習のノウハウを会得する。</li> </ul>					30時間			
授業時間外に必要な学修	研修日誌の記入及び研修報告書の作成								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事業がある場合は教務学生課へ申し出ること。その後、別途通知する。								

## 令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	T205	会社経営		学科名	全学科 フードビジネス	学年	2年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	2	時間数	30	開講時期	4月～1月
科目の概要	農大の模擬会社を教材に、会社経営計画や販売計画などを学ぶ。								
講師名	農業大学校職員、外部講師							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	○会社経営に関する基礎知識を身につける。 ○模擬会社の運営及び経理について理解する。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識（70点）			学習態度（20点）			出席率（10点）	
	基準	学生出資会社の運営に関する意見交換会や受講後のレポートの内容により評価する。			授業中の態度をA・B・Cの3段階で評価し、以下の係数を乗じた点数とする。 A：問題のない授業態度 1.0 B：注意を受けたが改善 0.5 C：改善なし、授業妨害 0			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	学生出資会社に関する各組織ごとの運営方法 今年度の経営目標						1		
2	経理状況の確認（各専攻ごと）						1		
3	契約書類に関すること						1		
4	5月農大市の準備、運営方法について						1		
5	農大市の反省、模擬会社に関する各組織の運営方法について						1		
6	模擬会社に関する研究						1		
7	模擬会社に関する研究						1		
8	6月農大市の準備、運営方法について						1		
9	農大市の反省、模擬会社に関する各組織の運営方法について						1		
10	模擬会社に関する研究						1		
11	模擬会社に関する研究						1		
12	7月農大市の準備、運営方法について						1		
13	農大市の反省、模擬会社に関する各組織の運営方法について						1		
14	R3年度前期の売上会計報告						1		
15	ふるさと納税について 高鍋町役場 財政経営課 ふるさと納税担当者						1		
16	農大市の反省、模擬会社に関する各組織の運営方法について						1		
17	10月農大市の準備、運営方法について						1		
18	農大市の反省、模擬会社に関する各組織の運営方法について						1		
19	模擬会社に関する研究						1		
20	模擬会社に関する研究						1		
21	11月農大市の準備、運営方法について						1		
22	1, 2年合同 会社経営について						2		
23	株式会社ヤミーフードラボ代表取締役 谷口竜一 様								
24	1, 2年合同 学生出資会社の新役員体制づくり						2		
25	定期株主総会資料作成								
26	定期総会資料制作						1		
27	1, 2年合同 会社経営、商品開発について						2		
28	株式会社 日向利休庵 代表取締役 弓削 龍生 様								
29	令和3年 定時株主総会						2		
30									
授業時間外に必要な学修	専攻ごとに販売実績について情報収集を行い、売上向上に向けて研究する。								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試、補講は認めない。								

## 令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	T208	商業簿記	学科名	全学科	学年	2年	学期	前期		
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	2	時間数	30	開講時期	7,8月	
科目の概要	複式簿記の意義、貸借対照表・損益計算書の意味と構成、帳簿と仕分け、減価償却と計算法、試算表と清算表、決算までの簿記の一連の流れを習得させる									
講師名	外部講師						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	日商簿記3級取得を目指す									
使用教材	講師の指定する教材									
成績評価	方法	知識（70点）			学習態度（20点）			出席率（10点）		
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			受講態度をA～Cの3段階で評価。 A：興味関心を持って積極的に受講している(20点) B：周囲に迷惑をかけることなく受講している(10点) C：居眠り、スマホ操作等により講義に集中していない(0点)			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容					時間	備 考			
1,2	簿記の意義、記帳から決算までの流れ					2				
3,4	貸借対照表の意味と構成					2				
5,6	損益計算書の意味と構成					2				
7,8	取引と勘定、帳簿					2				
9～12	仕訳					4				
13～15	資産、負債、資本					3				
16～18	収益と費用					3				
19～22	決算書作成					4				
23～29	検定過去問題の実施および解説					7				
30	試験					1				
授業時間外に必要な学修	講義の予習、復習 講師から出される課題									
再試験及び補習対象の実施基準										

## 令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	T209	教育実習		学科名	全学科	学年	2年	学期	前期
授業の方法	実習	区分	選択	単位数	2	時間数	30	開講時期	6月
科目の概要	農業高校の農業実習助手の実習								
講師名	県内の農業高校							実務経験のある教員等による授業科目	○
到達目標	農業高校の農業実習助手としての心構え、実務の概要を身につける								
使用教材	各指導者が準備する資料等								
成績評価	方法	研修日誌 (20点)		研修報告書 (30点)		研修評価書 (30点)		出席 (20点)	
	基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日数：2点/日</li> <li>・ 内容 A (良い)3点/日 B (普通)2点/日 C (悪い)0点/日</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 提出 提出有り：10点 提出無し：0点</li> <li>・ 内容※提出のみ採点 A (良い)20点/日 B (普通)10点/日 C (悪い)5点/日</li> </ul>		※講師の採点による。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 95%以上 1.0</li> <li>・ 90%以上95%未満 0.9</li> <li>・ 80%以上90%未満 0.8</li> <li>・ 80%未満 0</li> </ul>	
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容					時間	備 考		
1日目 ～ 3日目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修先の事業概要について学ぶ。</li> <li>・ 実習や見学をとおして教科指導に関する知識や技術を学ぶ。</li> </ul>					18時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導は実務経験のある職員に限定する。</li> <li>・ 説明等を講義形式で行う場合がある。</li> </ul>		
4日目 ～ 5日目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習や見学、講師等との意見交換をとおして、農場実習の実務について情報を収集する。</li> </ul>					12時間			
6日目 ～ 10日目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習や講師等との意見交換をとおして、農業教育・農場実習のノウハウを会得する。</li> </ul>					30時間			
授業時間外に必要な学修	研修日誌の記入及び研修報告書の作成								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事業がある場合は教務学生課へ申し出ること。その後、別途通知する。								

## 令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	A201	専攻実習 (各専攻)	学科名	農学科	学年	2年	学期	全期	
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	15	時間数	450	開講時期	4月～2月
科目の概要	・各専攻において栽培する品目の栽培技術の習得と各自のプロジェクト学習に取り組む。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・県内で栽培されている各専攻品目の栽培に関する知識を習得し、専攻実習で実践できるようにする。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識 (40点)	技能・技術 (40点)	出席率 (20点)		受講態度 (減点)			
	基準	各専攻で栽培する品目の生育や出荷調整について、理解度を評価する評定する。	各専攻で栽培する品目の生育や出荷調整について理解し、プロジェクト学習に積極的に取り組んでいるかをチェックし評定する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等			
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容					時間	備 考		
通年	各専攻で栽培する品目の栽培技術の習得 各自のプロジェクト学習品目の栽培技術の習得 各自のプロジェクト学習品目の調査と分析、まとめ					450			
授業時間外に必要な学修	実習日誌の提出								
再試験及び補習対象の実施基準	原則実施しない								

令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	A205h	花きの栽培管理		学科名	農学科	学年	2年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～7月
科目の概要	・プロジェクト学習に選定した品目の栽培管理								
講師名	農業大学校指導職員							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	・プロジェクト学習に選定した品目の施肥、防除、鮮度保持対策が実践できる。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識 (90点)			出席率 (10点)			受講態度 (減点)	
	基準	プロジェクト学習に選定した品目の施肥、病害虫防除、切り花方法、鮮度保持対策が適切に実践されているかチェックし、100点満点の90%を評価点とする。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95未満 0.9 ・80%以上90未満 0.8 ・70%以上80未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等	
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容					時間	備 考		
1	プロジェクト学習品目の時期別切り前と鮮度保持					1	農業大学校職員		
2	プロジェクト学習品目の時期別切り前と鮮度保持					1			
3	プロジェクト学習品目の時期別切り前と鮮度保持					1			
4	球根植物の球根養成方法と掘上、乾燥方法					1			
5	球根植物の球根養成方法と掘上、乾燥方法					1			
6	球根植物の球根養成方法と掘上、乾燥方法					1			
7	栄養繁殖品目の挿し芽方法と環境制御					1			
8	栄養繁殖品目の挿し芽方法と環境制御					1			
9	栄養繁殖品目の挿し芽方法と環境制御					1			
10	種子繁殖品目のは種方法と環境制御及び育苗方法					1			
11	種子繁殖品目のは種方法と環境制御及び育苗方法					1			
12	種子繁殖品目のは種方法と環境制御及び育苗方法					1			
13	種子繁殖品目のは種方法と環境制御及び育苗方法					1			
14	種子繁殖品目のは種方法と環境制御及び育苗方法					1			
15	種子繁殖品目のは種方法と環境制御及び育苗方法					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情のある場合はレポート作成とする								

## 令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	A205k	果樹の栽培管理	学科名	農学科	学年	2年	学期	前期		
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～7月	
科目の概要	・プロジェクト学習に選定した品目の栽培管理									
講師名	農業大学校職員						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	・プロジェクト学習に選定した品目の施肥、防除、出荷調整対策が実践できる。									
使用教材	講師準備資料									
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）		
	基準	プロジェクト学習に選定した品目の栽培管理及びプロジェクト学習成果について適切に実践されているかチェックし、100点満点の90%を評価点とする。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・95%以上 1.0</li> <li>・90%以上95%未満 0.9</li> <li>・80%以上90%未満 0.8</li> <li>・70%以上80%未満 0.7</li> <li>・70%未満 0</li> </ul>			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容					時間	備 考			
1	果樹における病害虫管理（総論）					1	農業大学校職員			
2	マンゴーの栽培管理技術とプロジェクト学習成果					1				
3	マンゴーの栽培管理技術とプロジェクト学習成果					1				
4	みかんの栽培管理技術とプロジェクト学習成果					1				
5	みかんの栽培管理技術とプロジェクト学習成果					1				
6	ライチの栽培管理技術とプロジェクト学習成果					1				
7	ライチの栽培管理技術とプロジェクト学習成果					1				
8	きんかんの栽培管理技術とプロジェクト学習成果					1				
9	きんかんの栽培管理技術とプロジェクト学習成果					1				
10	日向夏の栽培管理技術とプロジェクト学習成果					1				
11	日向夏の栽培管理技術とプロジェクト学習成果					1				
12	ぶどうの栽培管理技術とプロジェクト学習成果					1				
13	ぶどうの栽培管理技術とプロジェクト学習成果					1				
14	果樹プロジェクト学習成果発表					1				
15	果樹プロジェクト学習成果発表					1				
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しない									

令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	A205s	作物の栽培管理		学科名	農学科	学年	2年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～7月
科目の概要	・ 水稻、豆類、葉たばこ、露地野菜の特性と栽培技術の理論を学修する。 ・ 特に、水稻の重要な栽培技術である雑草防除、病害虫防除のための技術を中心に学修する。□								
講師名	農業大学校職員							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	・ 水稻、豆類、葉たばこ、露地野菜の特性と栽培技術の理論の習得。□								
使用教材	作物学の基礎 I (農文教) 作物の病害虫診断 (農文教) ミニ植物図鑑 (全国農村教育協会) 講師準備資料								
成績評価	方法	知識 (90点)			出席率 (10点)			受講態度 (減点)	
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・ 95%以上 1.0 ・ 90%以上95%未満 0.9 ・ 80%以上90%未満 0.8 ・ 70%以上80%未満 0.7 ・ 70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等	
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容						時間	備 考	
1	プロジェクト学習に選定した品目の栽培管理						1	農業大学校職員	
2	水稻栽培における雑草防除 (雑草の種類、防除方法ほか)						1		
3	水稻栽培における雑草防除 (除草剤)						1		
4	水稻栽培における病害虫防除 (主要な病気と防除方法)						1		
5	水稻栽培における病害虫防除 (主要な害虫と防除方法)						1		
6	水稻栽培における先進的な技術と経営 (ICT技術、経営費ほか)						1		
7	豆類の栽培 (栽培方法、病害虫ほか)						1		
8	葉たばこ栽培 (栽培方法、病害虫、加工ほか)						1		
9	プロジェクト学習に選定した品目の栽培管理						1		
10	露地野菜の栽培管理						1		
11	露地野菜の栽培管理						1		
12	露地野菜の栽培管理						1		
13	露地野菜の栽培管理						1		
14	プロジェクト学習に選定した品目の栽培管理						1		
15	試験						1		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しない								

令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	A205y	施設野菜の栽培管理	学科名	農学科	学年	2年	学期	前期		
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～7月	
科目の概要	・プロジェクト学習に選定した品目の栽培管理									
講師名	農業大学校職員						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	・県内で栽培されている施設果菜類の栽培に関する知識を習得し、専攻実習で実践できるようにする。									
使用教材	講師準備資料									
成績評価	方法	知識 (90点)			出席率 (10点)			受講態度 (減点)		
	基準	プロジェクト学習に選定した品目の栽培管理及びプロジェクト学習成果について適切に実践されているかチェックし、100点満点の90%を評価点とする。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等		
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)										
回	内 容					時間	備 考			
1	スイカの栽培管理技術とプロジェクト学習成果					1	農業大学校職員			
2	スイカの栽培管理技術とプロジェクト学習成果					1				
3	トマトの栽培管理技術とプロジェクト学習成果					1				
4	トマトの栽培管理技術とプロジェクト学習成果					1				
5	キュウリの栽培管理技術とプロジェクト学習成果					1				
6	キュウリの栽培管理技術とプロジェクト学習成果					1				
7	ピーマンの栽培管理技術とプロジェクト学習成果					1				
8	ピーマンの栽培管理技術とプロジェクト学習成果					1				
9	イチゴの栽培管理技術とプロジェクト学習成果					1				
10	イチゴの栽培管理技術とプロジェクト学習成果					1				
11	メロンの栽培管理技術とプロジェクト学習成果					1				
12	メロンの栽培管理技術とプロジェクト学習成果					1				
13	野菜プロジェクト学習成果発表					1				
14	野菜プロジェクト学習成果発表					1				
15	試験					1				
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しない									

## 令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	A206	茶の歴史・文化	学科名	農学科	学年	2年	学期	前期		
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	6月～7月	
科目の概要	・お茶に関する理解を深めるため、歴史と文化や生産・流通・消費、健康増進を学ぶ。									
講師名	外部講師						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	・お茶に関する理解を深めるため、歴史と文化や生産・流通・消費、健康増進の知識を習得させる。									
使用教材	日本茶検定公式テキスト日本茶のすべてがわかる本 講師準備資料									
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）		
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容					時間	備 考			
1	お茶のプロフィール、成分、淹れ方					1	外部講師			
2	お茶の健康増進①					1				
3	お茶の健康増進②					1				
4	お茶の歴史と文化①					1				
5	お茶の歴史と文化②					1				
6	本県の茶業史					1				
7	本県の茶業研究					1				
8	世界のお茶の生産・流通・消費					1				
9	日本のお茶の生産・流通・消費					1				
10	本県のお茶の生産・流通・消費					1				
11	お茶の品種育成①					1				
12	お茶の品種育成②					1				
13	お茶の品種①					1				
14	お茶の品種②					1				
15	試験					1				
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しない									

## 令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	B206	GAP演習Ⅱ		学科名	農学科	学年	2年	学期	全期
授業の方法	演習	区分	選択	単位数	2	時間数	30	開講時期	4月～11月
科目の概要	・専攻実習において、GAP基準書、運営マニュアルの自己点検・改善をとおして、GAPの内容を理解し実践手法を学ぶ。								
講師名	農業大学校職員、外部講師						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・GAP基準書、運営マニュアルの自己点検、改善方法を習得させる。 ・GAP維持・更新審査に対応できる知識を習得させる。								
使用教材	講師準備資料 等								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）		受講態度（減点）		
	基準	専攻毎のGAP基準書、運営マニュアルに即した実践、基準書の自己点検、改善の取り組み、審査対応などGAP実践・内容の理解度を専攻担当者が評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	GAP基準書(AS I AGAP, ひなたGAP)自己点検①					3	農業大学校職員		
2									
3									
4	GAP基準書(AS I AGAP, ひなたGAP)自己点検②					3	農業大学校職員		
5									
6									
7	GAP基準書(AS I AGAP, ひなたGAP)自己点検改善指導①					3	農業大学校職員 外部講師		
8									
9									
10	GAP模擬審査研修①					3	農業大学校職員		
11									
12									
13	GAP基準書(AS I AGAP, ひなたGAP)自己点検改善指導②					3	農業大学校職員 外部講師		
14									
15									
16	GAP模擬審査研修②					3	農業大学校職員		
17									
18									
19	GAP審査受審					3	農業大学校職員		
20									
21									
22	GAP審査受審					3	農業大学校職員		
23									
24									
25	GAP審査受審					6	農業大学校職員		
26									
27									
28									
29									
30									
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない								

## 令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	B209c	茶の流通・販売	学科名	農学科	学年	2年	学期	全期	
授業の方法	実習	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～12月
科目の概要	・茶の流通・販売について実践的に学ぶ。								
講師名	外部講師						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内外における茶の流通動向及び消費動向について理解する。</li> <li>・市場・仲卸の役割や販売店の実際について理解する。</li> </ul>								
使用教材	各指導者が準備する資料								
成績評価	方法	研修報告書（80点）			出席率（20点）			受講態度（減点）	
	基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提出</li> <li>提出あり：50点</li> <li>提出なし：0点</li> <li>・内容</li> <li>A（良い）30点</li> <li>B（普通）15点</li> <li>C（悪い）5点</li> </ul>			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・95%以上 1.0</li> <li>・90%以上95%未満 0.9</li> <li>・80%以上90%未満 0.8</li> <li>・70%以上80%未満 0.7</li> <li>・70%未満 0</li> </ul>			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	国内外の茶の流通・販売について					3	外部講師		
2	国内外の茶の流通・販売について								
3	国内外の茶の流通・販売について								
4	市場・仲卸の役割と流通の実際					6			
5	市場・仲卸の役割と流通の実際								
6	市場・仲卸の役割と流通の実際								
7	市場・仲卸の役割と流通の実際								
8	市場・仲卸の役割と流通の実際								
9	市場・仲卸の役割と流通の実際					6			
10	茶の販売の実際								
11	茶の販売の実際								
12	茶の販売の実際								
13	茶の販売の実際								
14	茶の販売の実際								
15	茶の販売の実際								
授業時間外に必要な学修	研修報告書の作成								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情のある場合はレポート作成とする								

## 令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	B209h	花きの流通・販売	学科名	農学科	学年	2年	学期	全期	
授業の方法	実習	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～12月
科目の概要	・花きの流通・販売について実践的に学ぶ。								
講師名	農業大学校職員、外部講師						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・国内外における花きの流通動向及び消費動向について理解する。 ・市場・仲卸の役割や販売店の実際について理解する。								
使用教材	各指導者が準備する資料								
成績評価	方法	研修報告書（80点）			出席率（20点）		受講態度（減点）		
	基準	・提出 提出あり：50点 提出なし：0点 ・内容 A（良い）30点 B（普通）15点 C（悪い）5点			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	国内外の花きの流通・販売について					1	農業大学校職員		
2	国内外の花きの流通・販売について					1			
3	国内外の花きの流通・販売について					1			
4	市場・仲卸の役割と流通の実際					1			
5	市場・仲卸の役割と流通の実際					1			
6	市場・仲卸の役割と流通の実際					1			
7	市場・仲卸の役割と流通の実際					1			
8	市場・仲卸の役割と流通の実際					1			
9	市場・仲卸の役割と流通の実際					1			
10	花きの販売の実際					1			
11	花きの販売の実際					1			
12	花きの販売の実際					1			
13	花きの販売の実際					1			
14	花きの販売の実際					1			
15	花きの販売の実際					1			
授業時間外に必要な学修	研修報告書の作成								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情のある場合はレポート作成とする								

## 令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	B209k	果樹の流通・販売	学科名	農学科	学年	2年	学期	全期	
授業の方法	実習	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～12月
科目の概要	・果樹の流通・販売について実践的に学ぶ。								
講師名	農業大学校職員、外部講師						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・国内外における果樹の流通動向及び消費動向について理解する。 ・市場・仲卸の役割や販売店の実際について理解する。								
使用教材	各指導者が準備する資料								
成績評価	方法	研修報告書（80点）			出席率（20点）			受講態度（減点）	
	基準	・提出 提出あり：50点 提出なし：0点 ・内容 A（良い）30点 B（普通）15点 C（悪い）5点			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	国内外の果樹の流通・販売について					1	農業大学校職員		
2	国内外の果樹の流通・販売について					1			
3	国内外の果樹の流通・販売について					1			
4	市場・仲卸の役割と流通の実際					1			
5	市場・仲卸の役割と流通の実際					1			
6	市場・仲卸の役割と流通の実際					1			
7	市場・仲卸の役割と流通の実際					1			
8	市場・仲卸の役割と流通の実際					1			
9	市場・仲卸の役割と流通の実際					1			
10	果樹の販売の実際					1			
11	果樹の販売の実際					1			
12	果樹の販売の実際					1			
13	果樹の販売の実際					1			
14	果樹の販売の実際					1			
15	果樹の販売の実際					1			
授業時間外に必要な学修	研修報告書の作成								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情のある場合はレポート作成とする								

## 令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	B209s	作物の流通・販売	学科名	農学科	学年	2年	学期	全期	
授業の方法	実習	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～12月
科目の概要	・作物の流通・販売について実践的に学ぶ。								
講師名	農業大学校職員、外部講師						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・国内外における果樹の流通動向及び消費動向について理解する。 ・市場・仲卸の役割や販売店の実際について理解する。								
使用教材	各指導者が準備する資料								
成績評価	方法	研修報告書（80点）			出席率（20点）			受講態度（減点）	
	基準	・提出 提出あり：50点 提出なし：0点 ・内容 A（良い）30点 B（普通）15点 C（悪い）5点			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	国内外の作物の流通・販売について					1	農業大学校職員		
2	国内外の作物の流通・販売について					1			
3	国内外の作物の流通・販売について					1			
4	市場・仲卸の役割と流通の実際					1			
5	市場・仲卸の役割と流通の実際					1			
6	市場・仲卸の役割と流通の実際					1			
7	市場・仲卸の役割と流通の実際					1			
8	市場・仲卸の役割と流通の実際					1			
9	市場・仲卸の役割と流通の実際					1			
10	作物の販売の実際					1			
11	作物の販売の実際					1			
12	作物の販売の実際					1			
13	作物の販売の実際					1			
14	作物の販売の実際					1			
15	作物の販売の実際					1			
授業時間外に必要な学修	研修報告書の作成								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情のある場合はレポート作成とする								

## 令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	B209y	野菜の流通・販売	学科名	農学科	学年	2年	学期	全期	
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～12月
科目の概要	・野菜の流通・販売について実践的に学ぶ。								
講師名	農業大学校職員、外部講師						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・国内外における野菜の流通動向及び消費動向について理解する。 ・市場・仲卸の役割や販売店の実際について理解する。								
使用教材	各指導者が準備する資料								
成績評価	方法	研修報告書（80点）			出席率（20点）			受講態度（減点）	
	基準	・提出 提出あり：50点 提出なし：0点 ・内容 A（良い）30点 B（普通）15点 C（悪い）5点			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	国内外の野菜の流通・販売について					1			
2	国内外の野菜の流通・販売について					1			
3	国内外の野菜の流通・販売について					1			
4	市場・仲卸の役割と流通の実際					1			
5	市場・仲卸の役割と流通の実際					1			
6	市場・仲卸の役割と流通の実際					1			
7	市場・仲卸の役割と流通の実際					1	農業大学校職員		
8	市場・仲卸の役割と流通の実際					1			
9	市場・仲卸の役割と流通の実際					1			
10	野菜の販売の実際					1			
11	野菜の販売の実際					1			
12	野菜の販売の実際					1			
13	野菜の販売の実際					1			
14	野菜の販売の実際					1			
15	野菜の販売の実際					1			
授業時間外に必要な学修	研修報告書の作成								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情のある場合はレポート作成とする								

### 令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	B210	営農計画作成	学科名	農学科	学年	2年	学期	全期
授業の方法	演習	区分	単位数	2	時間数	30	開講時期	9月～1月
科目の概要	・プロジェクト活動において、売上及び経費等を算出し、経営面での基礎知識及び営農計画作成方法を学ぶ。							
講師名	農業大学校職員、外部講師						実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就農希望学生は、自分が栽培したい品目について、経営的な観点から営農計画を作成する。</li> <li>・進路が就農以外の学生は、プロジェクト活動や優良事例を参考に営農計画を作成する。</li> </ul>							
使用教材	講師準備資料、宮崎県経営管理指針 等							
成績評価	方法	知識（90点）	出席率（10点）		受講態度（減点）			
	基準	作成した資料、レポートにより、理解度を評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・95%以上 1.0</li> <li>・90%以上95%未満 0.9</li> <li>・80%以上90%未満 0.8</li> <li>・70%以上80%未満 0.7</li> <li>・70%未満 0</li> </ul>		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等			
授業の計画（授業の回数やスケジュール）								
回	内 容					時間	備 考	
1	営農計画作成方法について					1	農業大学校職員	
2	経営分析とは（分析の必要性と手法） 粗収益、生産原価、所得の求め方					2	外部講師	
3								
4	プロジェクト内容の把握（売上・経費等）					1	農業大学校職員	
5	個人経営の分析・診断方法					2	外部講師	
6								
7	プロジェクト内容の把握（売上・経費等）					1	農業大学校職員	
8	法人経営の特徴 法人経営の分析・診断方法					2	外部講師	
9								
10	経営概要（目標）設定					1	農業大学校職員	
11	経営概要（目標）設定					1		
12	作付計画作成					1		
13	作付計画作成					1		
14	ライフプランの作成方法について					2	外部講師	
15								
16	家計費の把握					1	農業大学校職員	
17	家計費の把握					1		
18	家計費の把握					1		
19	経営シミュレーションの作成方法について					2	外部講師	
20								
21	経営収支作成（生産物の収量と販売計画）					1	農業大学校職員	
22	経営収支作成（生産物の収量と販売計画）					1		
23	経営収支作成（生産物の収量と販売計画）					1		
24	固定資産状況・資金活用計画作成					1		
25	固定資産状況・資金活用計画作成					1		
26	固定資産状況・資金活用計画作成					1		
27	経営シミュレーションと検討					1		
28	経営シミュレーションと検討					1		
29	経営シミュレーションと検討					1		
30	まとめ					1		
授業時間外に必要な学修	特になし							
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない							

## 令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	B211	法人経営	学科名	農学科	学年	2年	学期	全期	
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	6月～10月
科目の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人経営の仕組みや制度について学ぶ。</li> <li>・現地研修において、法人経営の実際を学ぶ。</li> </ul>								
講師名	農業大学校職員、外部講師						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	農業法人の仕組みや制度について学習するとともに、県内法人の講義や視察研修を通じて法人経営への理解を深める。								
使用教材	・講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）	
	基準	試験・レポートにより理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・95%以上 1.0</li> <li>・90%以上95%未満 0.9</li> <li>・80%以上90%未満 0.8</li> <li>・70%以上80%未満 0.7</li> <li>・70%未満 0</li> </ul>			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	農業経営の法人化とメリット					2	外部講師		
2	農業法人の種類と設立								
3	宮崎県内の農業法人の状況					2			
4	集落営農の法人化 試験								
5	農業法人における労務管理について					2			
6									
7	法人経営の実際（講義）					2			
8									
9	レポート作成・試験					1	農業大学校職員		
10	県内先進農業法人調査研修					6	県内農業法人 農業大学校職員		
11									
12									
13									
14									
15									
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない								

## 令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	B212	農業指導演習		学科名	農学科	学年	2年	学期	全期
授業の方法	実習	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	5月～12月
科目の概要	・2年生がプロジェクト学習に選定した品目の栽培管理について指導できるよう演習する。								
講師名	農業大学校職員							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	・2年生がプロジェクト学習に選定した品目の栽培特性や栽培管理を1年生に指導できる。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識（80点）			出席率（20点）			受講態度（減点）	
	基準	プロジェクト学習に選定した品目の栽培管理を理解し、1年生に適切に指導できているかをチェックし、100点満点の評価を行うが80%を評価点とする。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・95%以上 1.0</li> <li>・90%以上95%未満 0.9</li> <li>・80%以上90%未満 0.8</li> <li>・70%以上80%未満 0.7</li> <li>・70%未満 0</li> </ul>			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	農業指導演習方法と注意事項						1		
2	農業指導演習方法と注意事項						1		
3	2年生がプロジェクト選定品目の栽培管理を1年生に指導						1		
4	2年生がプロジェクト選定品目の栽培管理を1年生に指導						1		
5	2年生がプロジェクト選定品目の栽培管理を1年生に指導						1		
6	2年生がプロジェクト選定品目の栽培管理を1年生に指導						1		
7	2年生がプロジェクト選定品目の栽培管理を1年生に指導						1		
8	2年生がプロジェクト選定品目の栽培管理を1年生に指導						1		
9	2年生がプロジェクト選定品目の栽培管理を1年生に指導						1		
10	2年生がプロジェクト選定品目の栽培管理を1年生に指導						1		
11	2年生がプロジェクト選定品目の栽培管理を1年生に指導						1		
12	2年生がプロジェクト選定品目の栽培管理を1年生に指導						1		
13	2年生がプロジェクト選定品目の栽培管理を1年生に指導						1		
14	2年生がプロジェクト選定品目の栽培管理を1年生に指導						1		
15	農業指導演習の反省と助言						1		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情のある場合はレポート作成とする								

令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	B214	畑かん水田営農演習	学科名	農学科	学年	2年	学期	全期		
授業の方法	講義	区分	選択(作物専攻)	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～10月	
科目の概要	・新規導入した農業機械の操作方法、ほ場操作技術について学ぶ。									
講師名	農業大学校職員、外部講師						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	・新規導入した農業機械の操作方法、ほ場操作技術の習得									
使用教材	・講師準備資料									
成績評価	方法	知識・技術(90点)			出席率(10点)			受講態度(減点)		
	基準	ほ場での操作技術、操作の理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等		
授業の計画(授業の回数やスケジュール)										
回	内 容					時間	備 考			
1	田植機					2	外部講師 農業大学校職員			
2										
3	トラクター52PS 自動操舵					2				
4										
5	乾燥機(小麦)					2				
6										
7	コンバイン(水稻)					2				
8										
9	乾燥機(水稻)					2				
10										
11	畑かん散水機					2				
12										
13	乗用管理機 芋堀取り機					3				
14										
15										
授業時間外に必要な学修	特になし									

再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない
----------------	---------------

## 令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	Z201	専攻実習		学科名	畜産学科	学年	2年	学期	全期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	14	時間数	420	開講時期	4月～12月
科目の概要	・各専攻別に家畜の飼養管理や繁殖・肥育管理等の実習を通して生産技術や経営スキルを学ぶ。								
講師名	農業大学校職員							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	・畜産の生産技術や経営技術を習得する。								
使用教材	・講師作成資料								
成績評価	方法	知識（40点）	技能・技術（40点）	出席率（20点）		受講態度（減点）			
	基準	各専攻別に家畜の飼養管理等の実習やプロジェクト学習に積極的に取り組んでいるかをチェックし評定する。	講師の採点による。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・80%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等			
回	内 容					時間	備 考		
1～60	家畜の飼養管理等					60	4月		
61～120	家畜の飼養管理等					60	5月		
121～180	家畜の飼養管理等					60	6月		
181～240	家畜の飼養管理等					60	7月		
241～260	家畜の飼養管理等					20	8月		
261～320	家畜の飼養管理等					60	9月		
321～380	家畜の飼養管理等					60	10月		
381～400	家畜の飼養管理等					20	11月		
401～420	家畜の飼養管理等					20	12月		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試験及び補講は行わないが、特別な事情がある場合は時間外に補講を認める。								

## 令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	Y202b	養豚経営の事例研究	学科名	畜産学科	学年	2年	学期	全期		
授業の方法	演習	区分	選択(ただし養豚専攻は、必ず履修すること)	単位数	1	時間数	15	開講時期	7月～11月	
科目の概要	・県内外の養豚経営について、優良・最新事例の現地調査を実施する。									
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	・県内外の養豚経営について、優良・最新事例の現地調査を実施し、施設や生産管理システムについての知識を習得する。									
使用教材	・講師作成資料									
成績評価	方法	研修報告書(90点)			出席率(10点)			受講態度(減点)		
	基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提出 提出あり: 40点 提出なし: 0点</li> <li>・内容 A(良い) 50点 B(普通) 20点 C(悪い) 0点</li> </ul>			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・95%以上 1.0</li> <li>・90%以上95%未満 0.9</li> <li>・80%以上90%未満 0.8</li> <li>・70%以上80%未満 0.7</li> <li>・70%未満 0</li> </ul>			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等		
授業の計画(授業の回数やスケジュール)										
回	内 容					時間	備 考			
1	養豚の優良・最新事例研究(校外学習)①					1	農業大学校指導職員			
2	養豚の優良・最新事例研究(校外学習)①					1				
3	養豚の優良・最新事例研究(校外学習)①					1				試験①
4	養豚の優良・最新事例研究(校外学習)②					1				
5	養豚の優良・最新事例研究(校外学習)②					1				
6	養豚の優良・最新事例研究(校外学習)②					1				試験②
7	養豚の優良・最新事例研究(校外学習)③					1				
8	養豚の優良・最新事例研究(校外学習)③					1				
9	養豚の優良・最新事例研究(校外学習)③					1				試験③
10	養豚の優良・最新事例研究(校外学習)④					1				
11	養豚の優良・最新事例研究(校外学習)④					1				
12	養豚の優良・最新事例研究(校外学習)④					1				試験④
13	養豚の優良・最新事例研究(校外学習)⑤					1				
14	養豚の優良・最新事例研究(校外学習)⑤					1				
15	養豚の優良・最新事例研究(校外学習)⑤					1				試験⑤
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。									

## 令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	Y202n	肉用牛経営の事例研究	学科名	畜産学科	学年	2年	学期	前・後期	
授業の方法	演習	区分	選択(ただし、肉用牛専攻は必ず履修すること)	単位数	1	時間数	15	開講時期	7月～11月
科目の概要	・県内外の肉用牛繁殖及び肥育経営について、優良・最新事例の現地調査を実施する。								
講師名	・農業大学校職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・県内外の肉用牛繁殖及び肥育経営について、優良・最新事例の現地調査を実施し、施設や生産管理システムについての知識を習得する。								
使用教材	・講師作成資料								
成績評価	方法	研修報告書(90点)			出席率(10点)			学習態度(減点)	
	基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提出 提出あり: 40点 提出なし: 0点</li> <li>・内容 A(良い) 50点 B(普通) 20点 C(悪い) 0点</li> </ul>			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・95%以上 1.0</li> <li>・90%以上95%未満 0.9</li> <li>・80%以上90%未満 0.8</li> <li>・70%以上80%未満 0.7</li> <li>・70%未満 0</li> </ul>			視察や調査中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画(授業の回数やスケジュール)									
回	内 容					時間	備 考		
1	肉用牛繁殖・肥育経営の優良・最新事例研究(校外学習)					1	農業大学校職員		
2	肉用牛繁殖・肥育経営の優良・最新事例研究(校外学習)					1			
3	肉用牛繁殖・肥育経営の優良・最新事例研究(校外学習)					1			
4	肉用牛繁殖・肥育経営の優良・最新事例研究(校外学習)					1			
5	肉用牛繁殖・肥育経営の優良・最新事例研究(校外学習)					1			
6	肉用牛繁殖・肥育経営の優良・最新事例研究(校外学習)					1			
7	肉用牛繁殖・肥育経営の優良・最新事例研究(校外学習)					1			
8	肉用牛繁殖・肥育経営の優良・最新事例研究(校外学習)					1			
9	肉用牛繁殖・肥育経営の優良・最新事例研究(校外学習)					1			
10	肉用牛繁殖・肥育経営の優良・最新事例研究(校外学習)					1			
11	肉用牛繁殖・肥育経営の優良・最新事例研究(校外学習)					1			
12	肉用牛繁殖・肥育経営の優良・最新事例研究(校外学習)					1			
13	肉用牛繁殖・肥育経営の優良・最新事例研究(校外学習)					1			
14	肉用牛繁殖・肥育経営の優良・最新事例研究(校外学習)					1			
15	肉用牛繁殖・肥育経営の優良・最新事例研究(校外学習)					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

## 令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	Y202r	酪農経営の事例研究	学科名	畜産学科	学年	2年	学期	全期	
授業の方法	演習	区分	選択(ただし酪農専攻は必ず履修すること)	単位数	1	時間数	15	開講時期	7月～11月
科目の概要	・県内外の酪農経営について、優良・最新事例の現地調査を実施する。								
講師名	・農業大学校職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・県内外の酪農経営について、優良・最新事例の現地調査を実施し施設や生産管理システムについての知識を習得する。								
使用教材	・講師作成資料								
成績評価	方法	研修報告書(90点)			出席率(10点)			受講態度(減点)	
	基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提出</li> <li>提出あり: 40点</li> <li>提出なし: 0点</li> <li>・内容</li> <li>A(良い) 50点</li> <li>B(普通) 20点</li> <li>C(悪い) 0点</li> </ul>			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・95%以上 1.0</li> <li>・90%以上95%未満 0.9</li> <li>・80%以上90%未満 0.8</li> <li>・70%以上80%未満 0.7</li> <li>・70%未満 0</li> </ul>			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等	
授業の計画(授業の回数やスケジュール)									
回	内 容					時間	備 考		
1	酪農経営の優良・最新事例研究(校外学習)					1	農業大学校職員		
2	酪農経営の優良・最新事例研究(校外学習)					1			
3	酪農経営の優良・最新事例研究(校外学習)					1			
4	酪農経営の優良・最新事例研究(校外学習)					1			
5	酪農経営の優良・最新事例研究(校外学習)					1			
6	酪農経営の優良・最新事例研究(校外学習)					1			
7	酪農経営の優良・最新事例研究(校外学習)					1			
8	酪農経営の優良・最新事例研究(校外学習)					1			
9	酪農経営の優良・最新事例研究(校外学習)					1			
10	酪農経営の優良・最新事例研究(校外学習)					1			
11	酪農経営の優良・最新事例研究(校外学習)					1			
12	酪農経営の優良・最新事例研究(校外学習)					1			
13	酪農経営の優良・最新事例研究(校外学習)					1			
14	酪農経営の優良・最新事例研究(校外学習)					1			
15	酪農経営の優良・最新事例研究(校外学習)					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	Y203b	豚の飼養管理		学科名	畜産学科	学年	2年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	選択 (ただし、養豚専攻は必ず履修すること)	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～7月
科目の概要	・母豚の繁殖、子豚及び肥育豚の一般的な飼養管理体系とともに最新の試験研究成果を学ぶ。								
講師名	農業大学校職員、外部講師							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	・飼養管理体系及び最新の試験研究の知識を習得する。								
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養豚の教科書</li> <li>・講師作成資料</li> </ul>								
成績評価	方法	知識 (90点)			出席率 (10点)			受講態度 (減点)	
	基準	講義ごとのレポートにより評価			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・95%以上 1.0</li> <li>・90%以上95%未満 0.9</li> <li>・80%以上90%未満 0.8</li> <li>・70%以上80%未満 0.7</li> <li>・70%未満 0</li> </ul>			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等	
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容					時間	備 考		
1	種雌豚の繁殖管理 (基本管理、発情・交配適期、妊娠鑑定等)					1	農業大学校職員		
2	種雌豚の繁殖管理 (基本管理、繁殖サイクル、人工授精等)					1			
3	候補豚の管理 (馴致手法、母豚群免疫安定化、候補豚選抜等)					1			
4	哺乳豚の管理 (基本管理、ワクチン・抗生剤、AI・AO等)					1			
5	肥育豚の管理 (基本管理、疾病管理等)					1			
6	試験①					1			
7	豚の選抜、交配及び能力検定					1	外部講師		
8	豚の選抜、交配及び能力検定					1			
9	試験②					1			
10	高付加価値豚肉生産及びエコフィード活用の事例の実際					1	外部講師		
11	高付加価値豚肉生産及びエコフィード活用の事例の実際					1			
12	試験③					1			
13	豚に関する最新の試験研究と成果 場所:畜産試験場川南支場					1	農業大学校職員		
14	豚に関する最新の試験研究と成果					1			
15	試験④					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

## 令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	Z210	肉用牛の飼養管理	学科名	畜産学科	学年	2年	学期	前期	
授業の方法	講義	区分	選択(ただし、肉用牛専攻は、必ず履修すること)	単位数	1	時間数	15	開講時期	6月～7月
科目の概要	・農場における飼養状況に応じて課題を取り上げ、肉用牛の飼養管理技術について知識・技術とともに、最新の試験研究成果を学ぶ。								
講師名	・農業大学校職員、外部講師						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・農場における飼養状況に応じて課題を取り上げ、ゼミ形式で肉用牛の飼養管理技術について知識・技術を習得させるとともに、最新の試験研究成果に関する知識を習得する。								
使用教材	・日本標準飼料分析表、日本飼養標準(肉用牛)、講師作成資料								
成績評価	方法	知識(90点)			出席率(10点)			学習態度(減点)	
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画(授業の回数やスケジュール)									
回	内 容					時間	備 考		
1	各専攻の飼養管理マニュアル①					1	農業大学校職員		
2	各専攻の飼養管理マニュアル②					1			
3	各専攻の飼養管理マニュアル③					1			
4	各専攻のリスク分析①					1			
5	各専攻のリスク分析②					1			
6	各専攻のリスク分析③					1			
7	肉用牛繁殖の給与設計					1			
8	肉用牛肥育の給与設計					1			
9	育成牛の給与設計					1			
10	子牛の給与設計					1			
11	試験①					1	外部講師		
12	酪農の最新の試験研究と成果					1			
13	試験②					1			
14	肉用牛の最新の試験研究と成果					1			
15	試験③					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

## 令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	Y203r	乳用牛の飼養管理		学科名	畜産学科	学年	2年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	選択(ただし、酪農専攻は必ず履修すること)	単位数	1	時間数	15	開講時期	6月～7月
科目の概要	・農場における飼養状況に応じて課題を取り上げ、乳用牛の飼養管理技術について知識・技術とともに、最新の試験研究成果を学ぶ。								
講師名	・農業大学校指導職員、外部講師							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	・農場における飼養状況に応じて課題を取り上げ、ゼミ形式で乳用牛の飼養管理技術について知識・技術とともに、最新の試験研究成果に関する知識を習得する。								
使用教材	・日本標準飼料分析表、日本飼養標準(乳用牛)、講師作成資料								
成績評価	方法	知識(90点)			出席率(10点)			受講態度(減点)	
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等	
授業の計画(授業の回数やスケジュール)									
回	内 容					時間	備 考		
1	各専攻の飼養管理マニュアル①					1	農業大学校職員		
2	各専攻の飼養管理マニュアル②					1			
3	各専攻の飼養管理マニュアル③					1			
4	各専攻のリスク分析①					1			
5	各専攻のリスク分析②					1			
6	各専攻のリスク分析③					1			
7	搾乳牛の給与設計①					1			
8	搾乳牛の給与設計②					1			
9	子牛・育成牛の給与設計③					1			
10	乾乳牛の給与設計④					1			
11	試験①					1	外部講師		
12	酪農の最新の試験研究と成果					1			
13	試験②					1			
14	肉用牛の最新の試験研究と成果					1			
15	試験③					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

## 令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	Y204b	養豚経営 コンサルティング	学科名	畜産学科	学年	2年	学期	前期		
授業の方法	講義	区分	選択（ただし、 養豚専攻は必ず 履修すること）	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～7月	
科目の概要	・養豚経営における技術的指標、経営的指標の各項目について学ぶとともに、また、養豚経営における将来像を具体化するため、我が家の経営または経営事例をもとに、現状を把握し、将来のあるべき経営像を描かせ、その到達目標を実現すべく長期計画を樹立させるとともにその手順を立案させる。									
講師名	・農業大学校職員、外部講師						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	・経営分析指標等と比較し経営診断する能力を習得させる。									
使用教材	・養豚の教科書 ・講師作成資料 ・わかりやすい養豚場実用ハンドブック									
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）		
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容					時間	備 考			
1	養豚経営の分析・診断 事例研究					1	外部講師			
2	養豚経営の分析・診断 事例研究					1				
3	養豚経営の分析・診断 事例研究					1				
4	養豚経営の分析・診断 事例研究					1				
5	養豚経営の分析・診断 事例研究					1				
6	養豚経営の分析・診断 事例研究					1				
7	養豚経営の分析・診断 事例研究					1				
8	養豚経営の分析・診断 事例研究					1				
9	養豚経営の分析・診断 事例研究					1				
10	試験①					1				
11	経営計画の重要性、目的					1	農業大学校職員			
12	営農計画の年次的重点、基本的考え方					1				
13	営農設計の作成手順、内容					1				
14	年次別家畜の飼養計画内訳					1				
15	営農計画成果品提出					1				
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。									

## 令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	Y204n Y204r	肉用牛・酪農経営 コンサルティング	学科名	畜産学科	学年	2年	学期	全期		
授業の方法	講義	区分	選択(ただし、肉用牛・酪農専攻は必ず履修すること)	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～11月	
科目の概要	・肉用牛、酪農経営における技術的指標、経営的指標の各項目について学ぶとともに、経営分析指標等と比較し経営診断する技法を学ぶ。									
講師名	・外部講師						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	・肉用牛、酪農経営における将来像を具体化するため、我が家の経営または経営事例をもとに、現状を把握し、将来のあるべき経営像を描き、その到達目標を実現すべく長期計画を樹立させるとともにその手順を立案する。									
使用教材	・講師作成資料									
成績評価	方法	知識(90点)			出席率(10点)			受講態度(減点)		
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等		
授業の計画(授業の回数やスケジュール)										
回	内 容					時間	備 考			
1	肉用牛経営における経営事例研究					1	外部講師			
2	肉用牛経営における経営事例研究					1				
3	肉用牛経営における経営事例研究 試験①					1				
4	酪農経営における経営事例研究					1				
5	酪農経営における経営事例研究					1				
6	酪農経営における経営事例研究 試験②					1				
7	肉用牛経営の分析と診断					1				
8	肉用牛経営の分析と診断					1				
9	肉用牛経営の分析と診断					1				
10	肉用牛経営の分析と診断					1				
11	肉用牛経営の分析と診断 試験③					1				
12	酪農経営の分析と診断					1				
13	酪農経営の分析と診断					1				
14	酪農経営の分析と診断					1				
15	酪農経営の分析と診断 試験④					1				
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。									

## 令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	Y205	削蹄演習		学科名	畜産学科	学年	2年	学期	前期
授業の方法	実習	区分	選択(ただし、肉用牛・酪農専攻は、必ず履修すること)	単位数	1	時間数	21	開講時期	7月～8月
科目の概要	・家畜の削蹄の必要性とともに削蹄技術を学ぶ。								
講師名	・外部講師							実務経験のある教員等による授業科目	○
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・削蹄の技術を習得する。</li> <li>・2級認定削蹄資格を取得する。</li> </ul>								
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・牛削蹄入門</li> <li>・講師準備資料</li> </ul>								
成績評価	方法	知識(40点)		技能・技術(40点)		出席率(20点)		受講態度(減点)	
	基準	講習会試験の採点による。		講習会試験の採点による。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・80%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等	
授業の計画(授業の回数やスケジュール)									
回	内 容					時間	備 考		
1	削蹄の基礎について					1	外部講師		
2	削蹄の基礎について					1			
3	削蹄実習					1			
4	削蹄実習					1			
5	削蹄実習					1			
6	削蹄実習					1			
7	削蹄実習					1			
8	削蹄実習					1			
9	削蹄実習					1			
10	削蹄基礎知識					1			
11	削蹄基礎知識					1			
12	削蹄基礎知識					1			
13	削蹄基礎知識					1			
14	削蹄基礎知識					1			
15	削蹄基礎知識 試験					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して補習は実施しない。								

## 令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	Y206	豚の疾病と衛生	学科名	畜産学科	学年	2年	学期	前期		
授業の方法	講義	区分	選択(ただし、養豚専攻は必ず履修すること)	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～7月	
科目の概要	・豚疾病の種類とその予防・治療方法及び養豚現場におけるバイオセキュリティ対策について学ぶ。									
講師名	・外部講師						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	・繁殖性向上のための最新の考え方を習得する。									
使用教材	・講師作成資料									
成績評価	方法	知識(90点)			出席率(10点)			受講態度(減点)		
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等		
授業の計画(授業の回数やスケジュール)										
回	内 容					時間	備 考			
1	養豚現場におけるバイオセキュリティの実際					1	外部講師			
2	養豚現場におけるバイオセキュリティの実際					1				
3	試験①					1				
4	豚疾病の種類					1				
5	豚疾病の種類					1				
6	豚疾病の予防					1				
7	豚疾病の予防					1				
8	豚疾病の治療					1				
9	豚疾病の治療					1				
10	豚繁殖性向上対策(豚の繁殖サイクル)					1				
11	豚繁殖性向上対策(繁殖性向上のための飼養管理)					1				
12	豚繁殖性向上対策(繁殖性向上のための飼養管理)					1				
13	豚繁殖性向上対策(繁殖豚の台帳管理、見える化)					1				
14	豚繁殖性向上対策(繁殖障害の原因と改善方法)					1				
15	試験②					1				
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。									

## 令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	Y207	家畜の衛生と環境	学科名	畜産学科	学年	2年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	単位数	1	時間数	15	開講時期	6月～7月
科目の概要	・家畜の飼養管理上基礎となる家畜衛生の意義と疾病診断、予防について学ぶ。また、畜産環境を取り巻く現状と課題、家畜排せつ物処理技術とともに環境と調和した資源循環型畜産の意義と重要性を学ぶ							
講師名	・外部講師						実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	・家畜衛生及び畜産環境の情勢と課題及びその対策技術に関する知識を習得する。							
使用教材	・講師作成資料							
成績評価	方法	知識（90点）		出席率（10点）		受講態度（減点）		
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）								
回	内 容					時間	備 考	
1	世界及び日本における疾病の発生状況と防疫体制					1	外部講師	
2	世界及び日本における疾病の発生状況と防疫体制					1		
3	宮崎県における疾病の発生状況と防疫体制					1		
4	宮崎県における疾病の発生状況と防疫体制					1		
5	試験①					1		
6	家畜衛生の目的と疾病対策					1		
7	家畜衛生の目的と疾病対策					1		
8	疾病の簡易診断法と予防接種					1		
9	疾病の簡易診断法と予防接種					1		
10	試験②					1		
11	家畜排せつ物の適正処理と利用					1		
12	堆肥化処理技術と施設					1		
13	汚水処理技術と施設					1		
14	悪臭対策					1		
15	試験③					1		
授業時間外に必要な学修	特になし							
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。							

## 令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	Y208	家畜の解剖		学科名	畜産学科	学年	2年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	選択(ただし、フード専攻以外は必ず履修すること)	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～7月
科目の概要	・家畜の体の構造について骨格、筋肉、臓器について総括的に理解させるとともに、削蹄を行う上で必要な肢蹄の解剖学を学ぶ。								
講師名	・農業大学校職員、外部講師							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	・家畜の体の構造について理解する。 ・家畜人工授精に関する知識を習得する。								
使用教材	・家畜人工授精テキスト ・講師作成資料								
成績評価	方法	知識(90点)			出席率(10点)			受講態度(減点)	
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等	
授業の計画(授業の回数やスケジュール)									
回	内 容 ●は「家畜人工授精に関する講習」(国)の科目名及び内容					時間	備考		
1	家畜の骨格					1	外部講師		
2	家畜の骨格					1			
3	家畜の骨格					1			
4	家畜の筋肉					1			
5	家畜の筋肉					1			
6	家畜の臓器					1			
7	家畜の臓器					1			
8	家畜の肢蹄の構造					1			
9	家畜の肢蹄の構造					1			
10	試験①					1			
11	生殖器解剖(生殖器の分類と発生) ●〈生殖器解剖〉精子形成及び卵子形成					1	農業大学校職員		
12	生殖器解剖(生殖器の分類と発生) ●〈生殖器解剖〉精子形成及び卵子形成					1			
13	生殖器解剖(生殖器の形態及び機能) ●〈生殖器解剖〉生殖器の形態及び機能					1			
14	生殖器解剖(生殖器の形態及び機能) ●〈生殖器解剖〉生殖器の形態及び機能					1			
15	試験② ●〈生殖器解剖〉					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

## 令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	Y209	畜産の新技术		学科名	畜産学科	学年	2年	学期	後期
授業の方法	講義・演習	区分	選択(ただし、フード専攻以外は必ず履修すること)	単位数	1	時間数	15	開講時期	11月～12月
科目の概要	・畜産における新技术開発の現状や課題について理解させるとともに、バイオテクノロジーの歴史、技術の意義、採卵、検卵、移植までの一連の知識と技術に加え、宮崎県における受精卵移植技術の利用と普及状況について学ぶ。								
講師名	・農業大学校職員、外部講師						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・畜産における新技术や受精卵移植に関する知識を習得する。								
使用教材	・講師作成資料								
成績評価	方法	知識(90点)			出席率(10点)			受講態度(減点)	
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等	
授業の計画(授業の回数やスケジュール)									
回	内 容					時間	備 考		
1	畜産における新技术開発の現状と課題(大家畜)					1	外部講師		
2	畜産における新技术開発の現状と課題(飼料、豚)					1			
3	畜産における新技术開発の現状と課題(鶏、家畜排せつ物)試験①					1			
4	体内受精卵移植技術の沿革と制度、県内における歴史と普及					1	農業大学校職員		
5	体内受精卵移植技術の実際の手順(採取、処理、移植)					1			
6	体外受精卵移植技術の概要試験②					1			
7	受精卵の採卵(演習)					1	外部講師		
8	受精卵の採卵(演習)					1			
9	受精卵の採卵(演習)					1			
10	受精卵の採卵(演習)					1			
11	受精卵の採卵(演習)					1			
12	受精卵の採卵(演習)					1			
13	受精卵の採卵(演習)					1			
14	受精卵の採卵(演習)					1			
15	試験③					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

## 令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	Y210	畜産物の加工と流通	学科名	畜産学科	学年	2年	学期	全期	
授業の方法	講義・演習	区分	選択(ただし、 フード専攻以外は 必ず履修すること)	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～11月
科目の概要	・食品関連法の基礎知識、乳肉加工の種類と特徴及び県産畜産物流通の現状と課題について学ぶ。また、乳肉製品の製造演習を通して、各段階での乳及び食肉の変化や理論を学ぶ。								
講師名	・外部講師						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・乳肉加工の製造の基礎を習得する。								
使用教材	・講師作成資料								
成績評価	方法	知識(90点)			出席率(10点)			受講態度(減点)	
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等	
授業の計画(授業の回数やスケジュール)									
回	内 容					時間	備 考		
1	食品関連法の基礎知識、乳肉加工の種類と特徴					1	外部講師		
2	食品関連法の基礎知識、乳肉加工の種類と特徴					1			
3	試験①					1			
4	肉加工品の製造(演習)		場所:調理室、肉加工室			1			
5	肉加工品の製造(演習)					1			
6	肉加工品の製造(演習)					1			
7	肉加工品の製造(演習)					1			
8	肉加工品の製造(演習)					1			
9	試験②					1			
10	乳加工品の製造(演習)		場所:調理室			1			
11	乳加工品の製造(演習)					1			
12	乳加工品の製造(演習)					1			
13	乳加工品の製造(演習)					1			
14	乳加工品の製造(演習)					1			
15	試験③					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

## 令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	Y211	育種と繁殖Ⅱ	学科名	畜産学科	学年	2年	学期	前期		
授業の方法	講義	区分	選択 (ただし フード専攻以外 は必ず履修する こと)	単位数	2	時間数	30	開講時期	4月～6月	
科目の概要	・育種では、家畜の遺伝の原理や主要形質の遺伝、家畜の選抜・交配・能力検定の方法、家畜登録制度の内容を学ぶ。繁殖では繁殖に関連する主なホルモンの作用機序や分泌調節、雌・雄の繁殖生理、妊娠と分娩のしくみとともに、家畜人工授精技術について学ぶ。									
講師名	・農業大学職員						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	・家畜の育種や繁殖に関する知識を習得する。 ・家畜人工授精に関する知識を習得する。									
使用教材	・家畜人工授精講習会テキスト ・講師作成資料									
成績評価	方法	知識 (90点)			出席率 (10点)			受講態度 (減点)		
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等		
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)										
回	内 容 ●は「家畜人工授精に関する講習」(国)の科目名及び内容					時間	備 考			
1～2	神経・内分泌 (内分泌概論) ● (繁殖生理) 繁殖機能に係るホルモン及び神経					2	農業大学校職員			
3～4	神経・内分泌 (繁殖に関連する主なホルモン) ● (繁殖生理) 性ホルモンの種類及び作用					2				
5	試験① ● (繁殖生理)					1				
6～13	繁殖生理 (発情周期とその制御・調節機構) ● (繁殖生理) 繁殖の周期性及び性成熟、発情周期に伴う生殖器及び行動の変化、受精及び受精卵の発育 ● (種付け理論) 授精 (交配) 適期、(妊娠と分娩) 雌生殖器内における精子及び卵子の移動並びにその機能の変化					8				
14	試験② ● (種付けの理論) (妊娠と分娩)					1				
15	精子生理 (性成熟と繁殖供用) ● (精子生理) 精液量及び精子数並びに精液の理化学的性状					1				
16～17	精子生理 (精子の形成と成熟) ● (精子生理) 精液量及び精子数並びに精液の理化学的性状					2				
18～20	精子生理 (精子の形態と機能) ● (精子生理) 精子の形態及び構造、精子の機能、精液性状及び精子機能に関する要因					3				
21	精子生理 (交尾・射精と精液) ● (繁殖生理) 射精の機序					1				
22	試験③ ● (精子生理)					1				
23～29	人工授精技術Ⅲ (精液精子検査法) (演習) ● (精液精子検査法) 精液及び精子の検査法					7				
30	試験④ ● (精液精子検査法) 精液及び精子の検査法					1				
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。									

## 令和3年度 授業計画書[シラバス]

科目名	F201	専攻実習(フ)		学科名	全学科 フードビジ ネス	学年	2年	学期	全期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	11	時間数	330	開講時期	4月～1月
科目の概要	様々な手法により農産物、畜産物の加工を行い、加工に関する基礎知識と技術を学ぶ。								
講師名	農業大学校職員						実務経験のある教員 等による授業科目		
到達目標	○農産物、畜産物の加工技術及び栽培から加工、販売までの6次化に向けた知識と技術を習得する。 ○食品に関する基礎知識を身につけ、加工から販売までの一連の流れを理解する。								
使用教材	食品製造実習関連資料								
成績評価	方法	知識(40点)	技能・技術(40点)	出席点(20点)			受講態度(減点)		
	基準	農産物、畜産物を使った商品開発を通して加工知識や技術の習得を判断する。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等		
授業の計画(授業の回数やスケジュール)									
回	内 容						時間	備 考	
1～50	農大の農畜産物の栽培管理について(6次化に向けた取組)						50		
51～110	農大産の作物を使った焼菓子、そうざい製造						60		
111～150	農大産の作物を使ったジャム類(イチゴ、マーマレード等)の製造						40		
151～220	農大産の牛乳を使ったアイスクリーム、乳製品の製造						70		
221～260	農大産の畜産物を使った肉加工品製造						40		
261～330	プロジェクト学習に関連した加工実習						70		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試及び補講は行わないが、特別な事情がある場合は時間外に補講を認める。								

令和3年度 授業計画書[シラバス]									
科目名	F205	会社経営		学科名	全学科 フードビジネス	学年	2年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	2	時間数	30	開講時期	4月～1月
科目の概要	農大の模擬会社を教材に、会社経営計画や販売計画などを学ぶ。								
講師名	農業大学校職員、外部講師							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	○会社経営に関する基礎知識を身につける。 ○模擬会社の運営及び経理について理解する。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席点（10点）			受講態度（減点）	
	基準	学生出資会社の運営に関する意見交換会や受講後のレポートの内容により評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	学生出資会社に関する各組織ごとの運営方法 今年度の経営目標						1		
2	経理状況の確認（各専攻ごと）						1		
3	契約書類に関すること						1		
4	5月農大市の準備、運営方法について						1		
5	農大市の反省、模擬会社に関する各組織の運営方法について						1		
6	模擬会社に関する研究						1		
7	模擬会社に関する研究						1		
8	6月農大市の準備、運営方法について						1		
9	農大市の反省、模擬会社に関する各組織の運営方法について						1		
10	模擬会社に関する研究						1		
11	模擬会社に関する研究						1		
12	7月農大市の準備、運営方法について						1		
13	農大市の反省、模擬会社に関する各組織の運営方法について						1		
14	R3年度前期の売上会計報告						1		
15	ふるさと納税について 高鍋町役場 財政経営課 ふるさと納税担当者						1		
16	農大市の反省、模擬会社に関する各組織の運営方法について						1		
17	10月農大市の準備、運営方法について						1		
18	農大市の反省、模擬会社に関する各組織の運営方法について						1		
19	模擬会社に関する研究						1		
20	模擬会社に関する研究						1		
21	11月農大市の準備、運営方法について						1		
22	1, 2年合同 会社経営について						2		
23	株式会社ヤミーフードラボ代表取締役 谷口竜一 様								
24	1, 2年合同 学生出資会社の新役員体制づくり						2		
25	定期株主総会資料作成								
26	定期総会資料制作						1		
27	1, 2年合同 会社経営、商品開発について						2		
28	株式会社 日向利休庵 代表取締役 弓削 龍生 様								
29	令和3年 定時株主総会						2		
30									
授業時間外に必要な学修	専攻ごとに販売実績について情報収集を行い、売上向上に向けて研究する。								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試、補講は認めない。								

## 令和3年度 授業計画書[シラバス]

科目名	F206	食品関連企業実習		学科名	全学科 フードビジネス	学年	2年	学期	全期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	3	時間数	90	開講時期	9月～11月
科目の概要	食品関連企業での実習を通じて、農大では達成できない高度な加工技術や商品開発について学ぶ。								
講師名	農業大学校職員							実務経験のある 教員等による授 業科目	
到達目標	食品関連企業での実習を通じて、高度な加工技術や商品開発について知見や経験を深める。								
使用教材	各企業が準備する資料								
成績評価	方法	知識（40点）	技能・技術（40点）	出席点（10点）		受講態度（減点）			
	基準	食品関連企業からの評価表や毎日記入する実習レポートの内容から評価する。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等			
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1～12	食品加工業での実習心構え、計画作成 研修企業の事前調査等						12		
13～84	食品関連企業実習						72		
85～87	研修まとめ・お礼状						3		
88～90	発表						3		
授業時間外に必要な学修	実習先での研修日誌を作成すること。食品加工業の業績や内容を情報収集し、熟知した上で研修に参加すること。								
再試験及び補習対象の実施基準	食品関連企業からの評価表、毎日記入する実習レポートの内容から評価する。 不十分な者については、課題を与え、レポートを再提出させ、再評価する。								

## 令和3年度 授業計画書[シラバス]

科目名	G202	食品化学Ⅱ		学科名	全学科 フードビジネス	学年	2年	学期	前期	
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	6月～9月	
科目の概要	商品製造における重要管理点（CCP）を科学的根拠に基づき監視するため、測定機器（水分活性装置、pH測定等）の使用方法について学ぶ。また、専門機関（食品開発センター）で実施されている官能評価等について知識を深め、安全で消費者嗜好に基づく商品開発に関する知識を深める。									
講師名	農業大学校職員、外部講師						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	食品製造における重要管理点工程管理のための科学的根拠の測定機器の取扱方法、官能評価方法など基礎的な知識を身につける。									
使用教材	講師からの配付資料									
成績評価	方法	知識（90点）			出席点（10点）			受講態度（減点）		
	基準	外部講師の講義終了後、評価テストを実施し、評価する。 食品開発センターでの研修終了後のレポートにより評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容						時間	備 考		
1～6	商品製造における重要管理点（CCP）と科学的根拠の測定 ・食品が劣化する要因と品質保持 ・水分活性と微生物の成育（水分活性の制御方法、測定方法） ・工程・品質管理に用いられる機器類（糖度、塩分、PH、水分活性） ・次亜塩素酸ナトリウムの調整						6	外部講師		
7～12	官能評価研修 ・5味の識別試験 ・野菜チップスの特性比較試験 ・データ解析						6	外部講師		
13～14	各自が製造した食品の測定（糖度、塩分、PH、水分活性）						2	農業大学校職員		
15	テスト						1	農業大学校職員		
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試及び補講は行わないが、特別な事情がある場合は時間外に補講を認める。									

## 令和3年度 授業計画書[シラバス]

科目名	G203	食品製造実習Ⅱ		学科名	全学科 フードビ ジネス	学年	2年	学期	全期
授業の方法	実習	区分	選択	単位数	3	時間数	90	開講時期	4月～1月
科目の概要	農産物、畜産物を使った加工技術の習得を通して、商品開発の手法を学ぶ。								
講師名	農業大学校職員、外部講師						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	農産物、畜産物の加工を行い、商品開発の知識及び製造技術を習得する。								
使用教材	食品製造実習関連資料								
成績評価	方法	知識（40点）	技能・技術（40点）	出席点（20点）			受講態度（減点）		
	基準	農産物、畜産物を使った加工品を製造することにより加工技術の習得を判断する。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等		
回	内 容					時間	備 考		
1～18	加工室、加工器具類の取り扱い説明 食品衛生に関する基礎知識（加工室の冷蔵庫温度管理、加工室の細菌検査等） 食品表示に関する基礎知識（加工品のラベル作成等）					18			
19～36	農大産の野菜・作物の加工品製造（ピューレ、パウダー製造） 農大産の小麦の加工品製造（パン、焼き菓子等） 農大産の果樹の加工品製造（ドライフルーツ、グミ等）					18			
37～48	農大産の畜産物を使った肉加工品製造とHACCPシステムに基づく製造工程の検証（ハム、ベーコン、ソーセージ等）					12	外部講師		
49～84	プロジェクト学習に関連した加工品製造実習					36			
85～90	農大産の農畜産物を使った加工品製造実習（各自製造）					6			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試験及び補習は行わないが、特別な事情がある場合は時間外に補習を認める。								

令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	G205	6次産業化Ⅱ		学科名	全学科 フードビジネス	学年	2年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	6月～9月
科目の概要	宮崎県内における6次産業化の施策や総合化事業計画について学ぶ。 農業大学校で生産される農産物を使い製造に取り組むことで6次産業化に必要な知識を習得する。								
講師名	農業大学校職員、外部講師							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	学生が、6次産業化に関する知識や加工技術について学び、自ら総合化事業計画を立て、実践できる力を身につけることを到達目標とする。								
使用教材	講師が配布する資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席点（10点）			受講態度（減点）	
	基準	各授業の後に、レポートを提出する。提出状況と後半に行うテストにより知識の習得状況を把握し、評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1～6	6次産業化の復習 農大で取れる野菜（ホウレンソウ）を使った1次加工品の製造と理論、ドレッシング製造の基礎						6	外部講師	
7～12	1次加工品を使った加工品の製造と理論、食品表示基準（マヨネーズディップソース、ジャム）						6	外部講師	
13～14	総合化事業計画と作成方法のポイント						2	外部講師	
15	総合化事業計画の作成演習						1	農業大学校職員	
授業時間外に必要な学修	各自総合化事業計画を作成し、レポートを提出すること								
再試験及び補習対象の実施基準	レポート提出が合格点に達しない場合は、再度テストを実施する。								

## 令和3年度 授業計画書[シラバス]

科目名	G206	商品開発と流通販売Ⅱ	学科名	全学科 フードビジネス	学年	2年	学期	前期		
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	6月～7月	
科目の概要	商品開発の基礎知識や国内における流通販売について広く学ぶと共に、農業ビジネスを具体的にイメージ出来るよう顧客が買いたくなる「商品」や「サービス」についてグループディスカッションを通じて学ぶ。									
講師名	農業大学校職員、外部講師						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	農産物の流通販売、それを活用した商品開発に関する知識を学び、販売戦略を計画的に実践できる力を身につけることを到達目標とする。									
使用教材	講師が準備する資料									
成績評価	方法	知識（90点）			出席点（10点）			受講態度（減点）		
	基準	外部講師の講義終了後のレポート及び講義終了後の評価テストにより評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容					時間	備 考			
1～2	農畜産物の加工品を作って売るとはどういうことか？					2				
3～4	「誰に買ってもらうのか？」から考える商品開発					2				
5～6	SNSマーケティングについて					2				
7～8	売れる商品開発の方法					2				
9～10	実践者から学ぶ～ケーススタディ①～					2				
11～12	実践者から学ぶ～ケーススタディ②～					2				
13～15	ロールプレイング～商品開発と流通販売を考える～ テストまたはレポート					3				
授業時間外に必要な学修	販売計画を作るために必要な市場調査（商品価格）やイベント時における消費者の反応についてまとめておくこと。学んだことをレポートにまとめる。特別講義（外部講師：福山氏）が6時間あり、専攻実習としてカウントし、新機材の扱い方について実習を行う。									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試及び補習は行わない。									

**令和3年度 授業計画書[シラバス]**

科目名	G207	新商品開発		学科名	全学科 フードビジネス	学年	2年	学期	前期	
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	2	時間数	30	開講時期	6月～7月	
科目の概要	フードビジネス関連機関（宮崎市みやPEC推進機構）や調理・食品製造を学ぶ大学や高等学校との連携による商品開発により、自ら商品を生み出す実践力を身につける。									
講師名	農業大学校職員						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	宮崎県内におけるフードビジネスの活性化及び新商品開発を目標に、これまでに培った加工技術や商品開発の知識、消費者へのアンケート調査など自ら考え行動することが出来る。									
使用教材	食品製造実習関連資料									
成績評価	方法	知識（90点）			出席点（10点）			受講態度（減点）		
	基準	農産物、畜産物を使った商品開発を通して製造技術の習得を判断するとともに、レポートにより評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容						時間	備 考		
1	講義の進め方の説明						1			
2～15	みやざきのフードビジネス 活性化 宮崎市外郭団体 みやPEC推進機構主催 スイーツプロジェクトに関する活動実践						14			
16～29	ビーツ食材を用いた新商品開発 南九州大学 健康栄養学部 食品開発科学科との連携						14			
30	レポート						1			
授業時間外に必要な学修	スイーツプロジェクトについては、各自でレシピを考案すること。									
再試験及び補習対象の実施基準	補講や再試験は実施しない。									

## 令和3年度 授業計画書[シラバス]

科目名	G208	微生物活用Ⅱ		学科名	農学科 畜産学科 フード専攻	学年	2年	学期	前期
授業の方法	講義・実験	区分	選択	単位数	1単位	時間数	15時間	開講時期	5月～6月
科目の概要	植物のバイオテクノロジーの基礎と組織培養や植物組織の実験を通し、雑菌・殺菌・滅菌の重要性やメカニズムの基礎・基本を習得し、農大農場生産物を使い、微生物を活用した食品の加工を学ぶ。								
講師名	農業大学校職員							実務経験のある教員等による授業科目	○
到達目標	○微生物を使った食品・醗酵食品の歴史、種類を理解する。 ○実験・実習を通し、微生物を使った食品製造を習得する。								
使用教材	講師準備資料・植物材料・実験施設設備・実験器具・実験機器・試薬他								
成績評価	方法	知識（40点）			学習態度（50点）			出席率（10点）	
	基準	14時間の講義・実験終了後、100点満点で評価試験を実施し、得点の40%を評価点とする。			主に実験において態度をA・B・C・D・Eの5段階で評価する。(1実験10点) A: 率先し意欲的・積極的に取り組む B: まじめに取り組む C: 普通に取り組む D: 意欲がなく積極的に取り組まない E: まじめに取り組まず実験を妨害 A: 9～10 B: 7～8 C: 5～6 D: 3～4 E: 1～2			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
実施日	内 容					時間	備 考		
5月11日 (火) 456	実験器具・機械類の操作方法 手指の洗浄					1			
	培地の作成 MS培地・H培地・YE培地					2			
	培地分注と滅菌操作（オートクレーブの働き・操作）								
5月13日 (木) 456	乳酸飲料製造・試飲					1			
	無菌操作（バイオ実験：カンショ・ゴムノキ継代、ランの播種）					2			
5月18日 (火) 156	甘酒造り 仕込み					1			
	甘酒試飲 ぬか漬け※ぬか床作り 天然酵母作成					2			
6月1日 (火) 345(6)	納豆作りと農大牛乳を使ったカスピ海ヨーグルト作り					1			
	天然酵母を使ったパン作り ぬか漬け（野菜仕込み）					2			
6月3日 (木) 456	試食・食味検査 納豆、ヨーグルト、ぬか漬け、天然酵母を使ったパン					2			
	評価試験					1			
授業時間外に必要な学修	○実験が主の授業であることから、全てを受講する事を基本とする。（公欠・病欠は除く） ○講義資料の復習と保管に取り組む。 ○それぞれの実験・実習にふさわしい適切で清潔な服装で実験に臨む。 ○検索等で必要なとき以外の講義・実習中のスマホ使用は禁止する。（休憩中は除く）								
再試験及び補習対象の実施基準	○管理運営要領の特別な事情に当たる場合以外、原則として再試験は実施しない。								